

平成30年度

事業計画

社会福祉法人 光照園
江戸川光照苑

I. 理念・品質方針

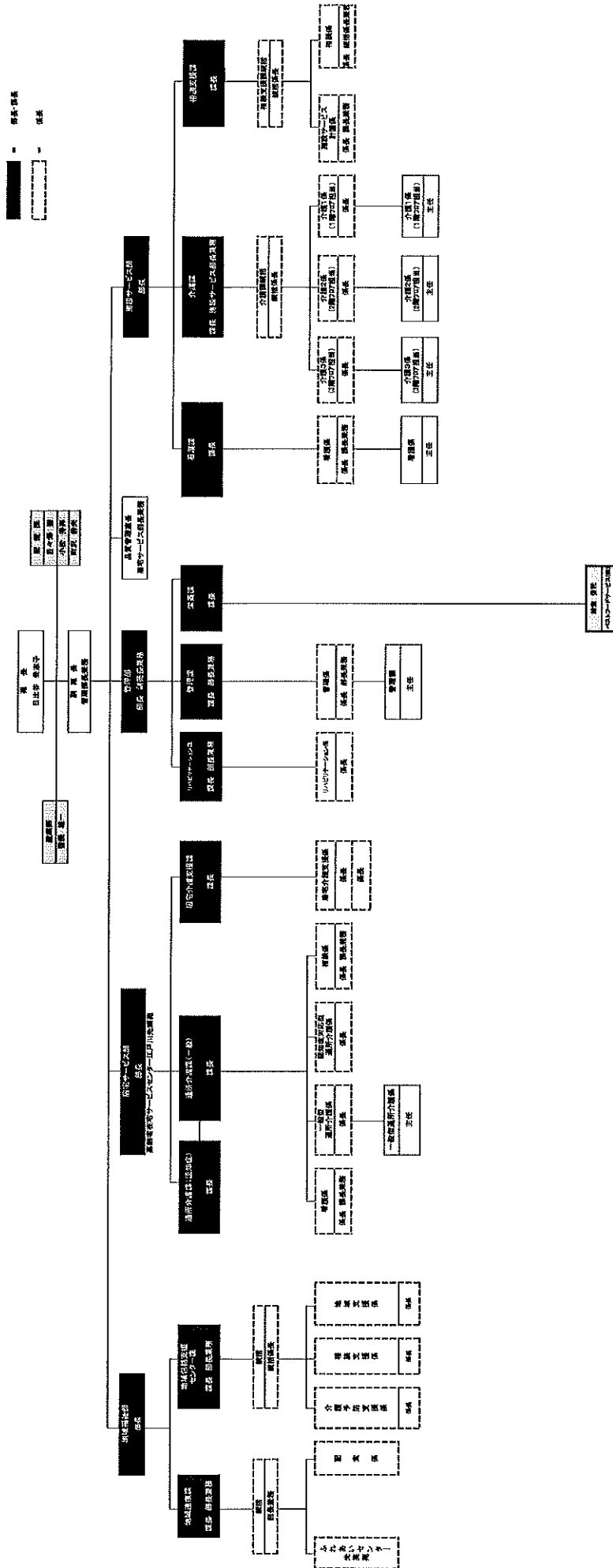
施設の理念

私たちは、人々の幸せを創造し、福祉サービス事業者として、常に一流としての品質と地位を維持し、社会に高く評価され、ご利用者に満足いただける最高のサービスを提供します。そして、地域、社会、環境に貢献するホスピタリティ事業者として、将来に亘り、事業の永続的な発展を目指します。

品質方針

- 一. 私たちは、すべての人々の期待に応えるパーソナルなサービスとホスピタリティの精神によって、創造性と先駆性ある事業を展開し、人々からの高い信頼と満足を得ます。
- 一. 私たちは、1人ひとりのライフステージのファンとなり、その価値を受け止められる「人としての豊かさ」を身につけ、研鑽と努力を惜しまず、プロとして専門性を高め、介護サービスのあるべき姿を提示します。
- 一. 私たちは、事業経営の安定性と透明性を確保するとともに、生命あるものや環境を大切にした地域社会の創造と発展に貢献します。
- 一. 私たちは、江戸川光照苑へ寄せられる貴重なご意見、ご批判などを真摯に受け止め、品質マネジメントシステムの有効性を継続的に改善し、常に成長し変化し続けながら、一貫した良品質のサービスを提供する江戸川光照苑ブランドを構築します。

II. 江戸川光照苑組織職制一覽



Ⅲ. 平成30年度 事業計画作成について

1 はじめに

団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、国民1人1人が状態に応じた適切なサービスを受けられるよう「地域包括ケアシステムの推進」「自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現」「多様な人材の確保と生産性の向上」「介護サービスの適正化・重点化を通じた制度の安定性・持続可能性の確保」を図るために、改正された介護保険関連法を受けて、今年度、介護報酬が改定された。

江戸川光照苑が、将来にわたり、この改定の主旨に添えていくためには、まだまだ、多くの課題を抱えている。

平成26年度に苑が実施する各事業の検証を行い、効果的で質の高いサービスを実施するために中長期計画を作成し、その実現に努めてきた。この中長期目標の作成から、5年目にあたる本年、介護保険法等の改定の目的に添えていくため、苑が実施する各事業における課題を改めて検証し、中長期計画の見直しを行った。

常に地域住民の方が望み、必要とされるサービスが提供できる江戸川光照苑となるよう努めていく。

2 計画の視点及び計画の内容

新たな中長期計画の初年度として、その実現のために、優先的に着手すべき事項について十分に精査し、着実に実施できる体制及び手法を年度目標及び実施計画として作成を行った。

特に、その検討の過程において、各事業における課題を解決していくために必要とされる人材像を具体的にし、その知識・技術を有する人材育成を各事業共通の目標とした。

(1) 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

- ・事業運営を確実なものとしていくため、稼働率の確保は必須であることから、前回中長期計画に引き続き、入所決定までのプロセスを効率化し、入所候補者を常に数名確保できるよう入所判定委員会を実施していく。稼働率98%を目標とした。

- ・利用者個々の課題に関して、各職種の共通認識が必ずしも十分でないことから、ケアプラン作成にあたって、各セクションからの情報収集の効率化と検討体制の強化を中長期計画とし、褥瘡予防、排泄状態・介護方法を具体的にケアプランに反映させ実施評価をしていくことを今年度の目標とし実施していく。

- ・介護面では、利用者の重度化、体格の向上などからの介護負担の増加、褥瘡、皮膚疾患の予防に対する対応力が課題となっており、介護技術の向上と適正な介護機器の導入、看護・介護・機能訓練と連携した褥瘡等皮膚疾患の発生予防と検討体制の強化を中長期計画とした。このため、各セクションと連携して、利用者個々の状況に応じた介護技術の習得と利用者ニーズに添えられる職員の育成、適正な介護機器の導入及び使用・訓練の実施、定着と褥瘡予防体制の確立を目標としている。

・自然排便を促す食生活の推進を引き続き実施していく。なお、利用者に美味しく、食べやすく、見た目良く、楽しく、栄養的にも満足される食事の提供に引き続き努めていく。

(2) 短期入所生活介護

・短期入所生活介護事業として在宅での生活継続・支援のために、見守り機器の活用方法の確立。喀痰吸引等の実施できる職員の配置により夜間の医療処置の対応の強化を中長期計画とし、中重度・認知症高齢者が安心して生活できるショートステイの環境づくりを行うこととしている。

(3) 居宅介護支援事業

・今後、医療・介護の役割分担と連携が一層求められる中、利用者・家族の代弁者としての医療知識・コミュニケーション力が不足していることから適切なマネジメントができていない。このため、悪性腫瘍等医療的ケアが必要な高齢者への適切なマネジメントの構築を中長期計画とし、利用者・家族の代弁者として、医療関係者と対等な連携ができるよう医療知識、コミュニケーション力を身につけることを年度目標とし、医療研修の参加を計画している。

(4) 通所介護事業（日常生活総合支援事業所通所介護サービス含む）

・介護給付費見直しにより安定した収入の確保と他通所事業所との競争力の強化が求められる。このため、高齢者在宅サービスセンター江戸川光照苑の特色の明確化と重度利用者受入のための職員個々の介護力の向上、利用者の生活行為向上のためのプロセスの共有と職種間の役割の明確化を中長期計画とした。

・本年度は個々のニーズを的確にとらえ、重点目標と具体的な支援内容を通所計画に着実に反映すること、各セクションの役割を明確にし、リハビリ環境、栄養食事環境などを整備し、利用者が有意義に過ごせる体制をつくる等、今年度の目標としている。なお、居宅介護支援事業所との密接な連携を取ることで、利用率90%を目標とした。

(5) 認知症対応型通所介護事業

・小岩地区で唯一の認知症型介護施設であるが、地域の中の認知度が不十分である。在宅での生活状況の把握が十分でないことから、利用者個々の対応が画一的になりがちである。このため、安定した在宅生活継続支援の確立、事業所のノウハウや利用するメリットを発信し、安心や信頼感を与える事業所となることを中長期の計画とし、個別性のある計画の立案と、利用者1人1人にあったサービス提供の個別化を図り、事業所の特色として発信していくことで、利用率85%の実現を目指すことを今年度の目標としている。なお、今回の報酬改定におけるサービス提供区分の見直しを踏まえ、基本報酬を8-9時間で設定している。

(6) 江戸川区委託事業

ア 地域包括支援センター事業

・地域の特性に則した高齢者を支える地域活動の充実をこれまでの目標にしてきたが、相談件数や虐待対応の増加などにより地域活動の充実のためには、多方面からの見直しが必要となる。このため地域の活動団体の役割分担、困難ケース対応するために課題を的確に捉えられる人材の育成、地域包括ケアシステムの要としての業務が円滑にできるよう、委託業務量及び業務内容について精査し、江戸川区に働きかけることを中長期計画とした。この計画の実現のため、本年度は委託業務量と業務内容を精査し、分析し他の地域包括支援センターとの課題の共有化を図る、地域包括相談員としての各個人の力量の向上等を目標としている。

イ 虚弱者向け配食サービス

・配達職員が、認知度や高齢者についての基本的な考え方の理解が不足しているため、適切な対応ができていない一面がある。利用者及び家族にとっての最善のサービスの実現のために、職員が適切な対応ができるよう人材の育成を図ることを中長期計画とし、今年度は配達職員の勉強会などを計画している。

(7) 地域社会福祉貢献活動

ア ふれあいセンター光笑苑（緩和型通所サービス）

・区よりの委託事業「熟年ふれあいセンター」の平成29年度に委託廃止に伴い、平成30年度より、新たに開始された事業である。これまでの、熟年ふれあいセンター通所者を対象とする他、本苑として地域社会貢献活動として、地域の中で閉じこもりや男性独身者等に事業を安価で解放する。

イ その他の地域貢献活動

・地域福祉活動・地域行事の参加により、円滑な地域との協力関係を保つ
・障害者就労支援の一貫として、江戸川光照苑「マルシェ」の開催

(8) 各種会議・委員会活動等

ア 品質管理室会議

・各部門を超えた苑全体の課題解決を担う中間管理職の育成及び各個人のレベルアップの仕組みと場が明確でないことから、品質管理室会議を中間管理職の育成の場として位置づけ、その仕組みを明確化する。

イ 管理部門

・修繕・固定資産・備品購入にあたって、予算との連動、進捗管理が十分にできておらず、確実な予算執行管理ができていない。また退職後の職員補充が進まず職員の業務に対する不安がある。このため、各部門のニーズ把握を十分に行った上で、予算案を作成し、予算との連動、進捗管理体制の強化、学校訪問など就職アプローチを確実なものとし、各部門における都度の人材確保計画を明確にしていくことを中長期目標とした。

ウ 防災対策

・災害に対する意識が希薄であること、地域住民の安全を守る拠点としての役割意識が不十分であるとの認識から、全職員が災害における役割を意識し行動できるようにすることを中長期の計画とし、今年度は、事業継続計画（BCP）の浸透と理解を目標の一つとしている。

I 人材育成

・職制毎の役割と求められる職員像をキャリアパスとして示したが、それに基づくレベルアップが十分に図られていない。このため、キャリアパスに基づく人事評価の適正な実施と定着を中長期計画とし、今年度は、昨年度（案）として提示した人事評価システムを完成させ実施に結びつけることとしている。

これら事業の進捗状況の確認と効果の検証のための目標管理の実施、さらにコンプライアンスの確保の視点からの内部監査を実施していく。

IV. 会議・委員会

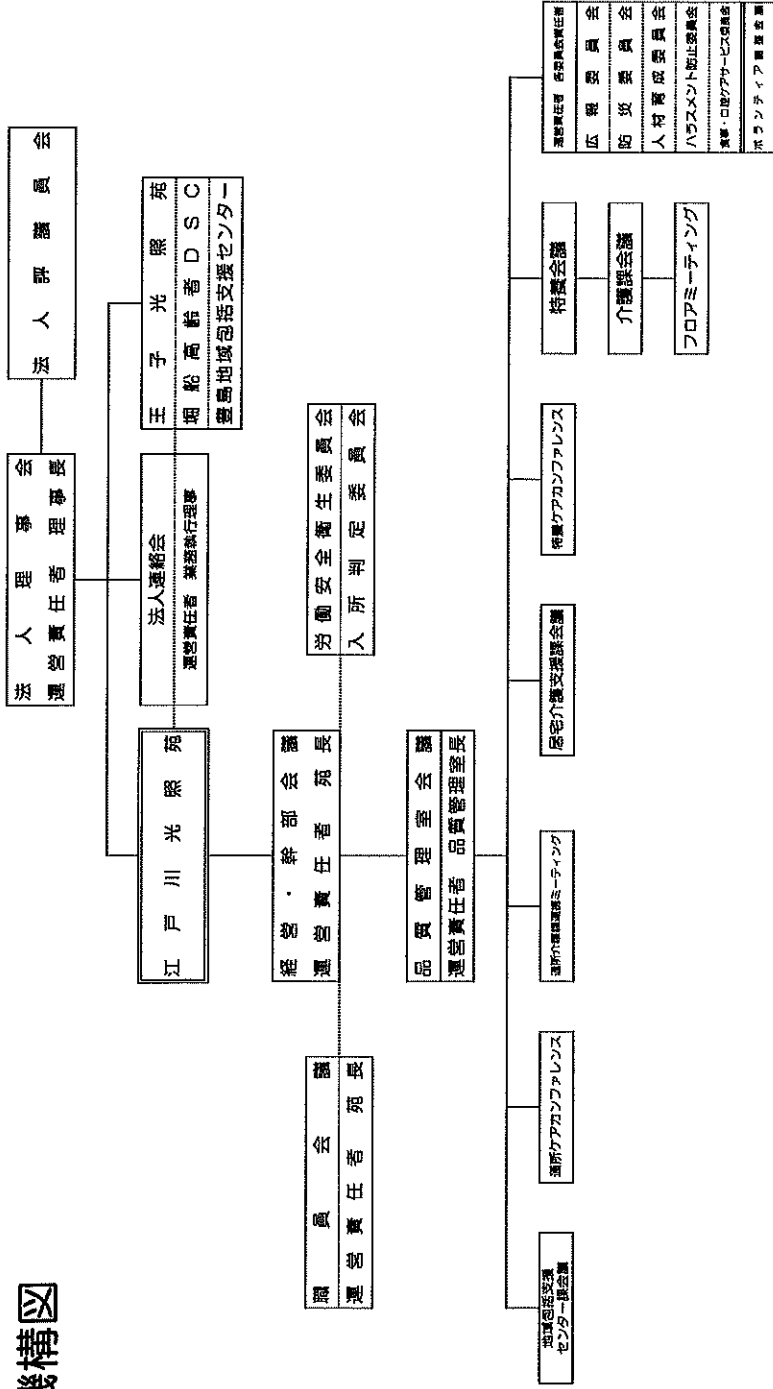
1. 定例諸会議・委員会一覧

会 議 名	開 催 日	時 間	参 加 職 員
経営・幹部会議	第二金曜日	14:00~15:30	苑長・副苑長・各部長・各課長または係長
品質管理室会議	第一金曜日	14:00~15:30	苑長・副苑長・居宅サービス部長（品質管理室長） 栄養課長・看護課長・通所課長（一般・認知） 介護統括係長・相談支援課長・地域包括係長・管理課主任
部長会議	不定期	調整	苑長、副苑長、各部長
職員会議	調整	18:00~19:30	苑長・副苑長・全職員
特養ケアプランカンファレンス	原則月曜日。必要に応じ家族と調整		各セクション担当者
特養会議 (リハリキ 外含む)	第四金曜日	14:00~15:00	施設サービス部長、介護課長、統括係長、栄養課長、 相談支援課長、看護課長、リハビリ課職員
介護課会議	第二金曜日	16:00~17:00	特養介護課係長、介護課主任
特養フロアミーティング	原則各フロア 月1回開催	18:00~19:00	係長以下各フロア職員、必要に応じて リハビリ課職員参加
通所介護連携ミーティング (リハリキ 外含む)	第四金曜日	17:00~17:30	居宅サービス部長、通所介護課長、認知症通所介護課 長、通所介護課係長、看護職員、リハビリ課職員
通所介護ケアカンファレンス	随時、計画表に準じて	17:20~17:40	通所介護課、リハビリテーション課職員
居宅介護支援課会議	週1回調整	調整	居宅サービス部長・居宅介護支援課長・係長
地域包括支援センター課会議	第三金曜日	16:00~17:00	地域福祉部長・地域包括支援センター課職員
ボランティア調整会議	各四半期 (7、9、11、2月) 必要に応じて	16:00~17:00	ボランティアコーディネーター・各担当

委 員 会 名	開 催 日	時 間	参 加 職 員
人材育成委員会	第三水曜日	16:00~17:00	人材育成委員会委員
広報委員会	第一水曜日	16:00~17:00	広報委員会委員
防災委員会	第四金曜日	16:00~17:00	防災委員会委員
食事・口腔ケアサービス委員会	第一火曜日	16:00~17:00	食事・口腔ケアサービス委員会委員
ハラスメント防止委員会	隔月第二金曜日	16:00~17:00	ハラスメント委員会委員
労働安全衛生委員会	第一木曜日	15:00~16:00	労働安全衛生委員会委員
入所検討委員会	第四木曜日	15:00~16:00	苑長、相談支援課長、統括係長、 看護課長、栄養課長

そ の 他	開 催 日	時 間	参 加 職 員
内部監査ミーティング（開始・終了）	監査開催前後	調整	内部監査員・被監査部門代表

2. 会議機構図



3. 各会議・委員会の担当表

【各会議・委員会の担当表】

会議・委員会名	委員長名	副委員長名	同担当
品質管理会議	柴田 一佐哲	葛西 重敏	岡野 麻美・山内 将志・阿部 正人・清水 孝雄・高橋 広康・平島 卓 筈川 浩・赤岸あや子・増田 めぐみ・必要に応じて、関連部署召集
ボランティア調整会議	ボランティア・コーディネーターが招集する		月岡 良江・渡辺 美代子・野澤 里加子・小倉 三枝子・横田 浩子
人材育成委員会 (実習生小委員会含む)	柴田 一佐哲	関根 悟	平島 卓・佐藤 かおり・細代 稔
労働安全衛生委員会	阿部 正人	赤岸 あや子	各部代表(桑原 幸一・高木 友子・山田 美和子)
広報委員会	柴田 一佐哲	保田 浩一郎	澤田 祐太・清水 孝雄・大山 宇・小泉 幸江
防災委員会	葛西 重敏	山内 将志(セナ) 玉井 昭(特養)	柴田 一佐哲・高橋 広康・内藤 雄子・清水 孝雄・山崎 公介
入所検討委員会	阿部 正人	関根 悟	苑長・介護課職員(部長、統括、係長のいずれか)・看護課職員・清水 孝雄・伊佐 久美子
食事・口腔サービス委員会	清水 孝雄	渡辺 雄士	葛西 重敏・柴田 一佐哲・看護課職員・濱沼 里織
ハラスメント委員会	葛西 重敏	阿野 麻美	筈川 浩・増田 めぐみ・二瓶 典子
リスクマネジメント担当	特養施設サービス部長	介護課統括係長	関根 悟(特養) 山内 将志(センター)
	センター居宅サービス部長	通所介護課長	阿部 正人(特養) 佐藤 かおり(センター) 平島 卓(特養) 野上 千善(センター) 渡辺 雄士(特養) 渡辺 美代子(センター) 赤岸 あや子(特養) 高木 友子(センター) 清水 孝雄
			事故・ヒヤリ・苦情 関根 悟(特養)
			身体拘束 阿部 正人(特養)
			高齢者虐待 平島 卓(特養)
			褥瘡 渡辺 雄士(特養)
			感染症 赤岸 あや子(特養)
			食中毒 清水 孝雄

※必要に応じて、オブザーバーとして苑長は各会議・委員会に出席することとする。

V. 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)

1. 相談支援

(1) 生活相談・入所検討委員会

中長期計画	○入所決定までのプロセスを効率化し、入所検討委員会にて常に複数の入所可能者を選定していく。
年度目標	
(1)	安定した運営を行えるようにするために、稼働率98%を確保することを目標とする。そのために退所後の早期入所の実現と公正な入所者の決定手続きを順守できるようにする。
実施計画	
(1)	①入所申込者の定期的な意向確認(6月・12月)の実施(入所申込者の適正な把握) ②入所候補者5名の常時確保(必要な面接の適宜実施、より公平な選定)

<今年度予算>(収入の部)

科目	積算内訳	予算額	備考
施設介護料収入	新たな基本報酬を元に1日分の合算額を算定し、平成30年2月末の要介護度に応じた人数を乗じて年間100%となった場合の金額を算定し、それに98%を乗じた。	¥177,313,460	介護報酬 処遇改善加算を除いた額
施設介護料収入	全体の目標額の1割を算出し、そこから介護職員処遇改善加算相当額を減じた。	¥19,701,496	利用者自己負担金 処遇改善加算を除いた額
施設介護料収入	処遇改善加算 I で算定	¥16,352,241	介護報酬と利用者自己負担分の処遇改善加算の合算額
利用者等利用料収入	基準額1,380円×60×98.0%×365	¥29,617,560	食費
	(840円×58+1150×2)×98.0%×365	¥18,249,854	居住費
	(150×60)×98.0%×365	¥3,219,300	日用品費
	30×40×98.0%×365	¥429,240	預り金管理費
	50×56×98.0%×365	¥1,001,560	おやつ代
	平成29年度と同じ数値	¥7,392	クラブ活動費 実費として別途収入を支払 いにあてるもの(理美容、 ホーム喫茶)は含めていな い。
50×10(台)×365×98.0%	¥182,500	TV利用料	
合 計		¥266,074,602	

<今年度予算>(支出の部)

科目	積算内訳	予算額	備考
雑支出	3,000円/回×12(月)	¥36,000	入所判定委員への報酬
合 計		¥36,000	

(2) 施設サービス計画

中長期計画 ○ケアプラン作成にあたっての各セクションからの情報提示と検討体制の強化

年度目標

- (1) ケアプラン作成のための各セクションからの情報収集の効率化とそれを反映させるための仕組みを作る。
- (2) 褥瘡予防・防止、排泄状態・介助方法について、ケアプランに反映させ、実施、評価する体制を作る。

実施計画

- (1) 栄養ケア計画、個別機能訓練実施計画を月の前半に作成してもらい、それを踏まえて月の後半のカンファレンスを実施する。栄養ケア計画、個別機能訓練実施計画についてカンファレンスで検討し、その結果をケアプランに反映する。
- (2) ケアプラン作成にあたり、褥瘡、排泄状況について各セクションと協働し、原因分析を明らかにし、ケアプランに具体的に反映する。

<今年度予算> (支出の部)

科目	積算内訳	予算額	備考
事務消耗品支出	季刊購読雑誌	¥15,120	施設ケアマネ&相談員
合	計	¥15,120	

2. 介護

(1) 介護職員の育成

中長期計画 ○看護・介護・機能訓練と連携した褥瘡、皮膚疾患の発生防止・予防の強化
○介護技術の向上・適正な介護機器の導入及び使用・訓練実施。定着

年度目標

- (1) 褥瘡と皮膚疾患を含む身体状況をきめ細かく把握し、情報の共有を図り、改善に向けた支援について、各セクション協働して取り組む体制の強化
- (2) 利用者が安心・安全に生活できるよう、利用者個々の状況に応じた介護技術の習得と利用者ニーズに応えられる職員の育成。
- (3) 利用者の日常生活における環境整備・支援の見直しと強化

実施計画

- (1) 機能訓練指導員と連携し、各利用者ごとにクッション使用の見直しを行い、適正な体交用クッションの選定および購入、使用方法の周知、徹底を図る。
- (2) 他施設の見学・研修に参加し、利用者との携わりを学び、利用者の生活向上とイベント等のアイデアを吸収することで施設の社会的責任を確認する。また参加職員は複数とし異なる視点での見学を行い、内容をまとめ特養会議内で報告する。
- (3) 介護機器・介護用品の見直しを行い、利用者個々に合わせた選定・導入をし、保管など管理の徹底をする。

介護課会議	
参加者	統括係長、各階係長、（必要に応じて他部課職員）
内容	開催は隔月毎、必要に応じて回数増あり。
	●フロアミーティングから上がってきた課題の整理
	●各フロア研修計画の樹立と進捗確認
	●利用者ケアに関する物品等の検討、調整
	●事故・ヒヤリ・苦情・褥瘡・虐待の確認

フロアミーティング	
参加者	フロア職員（必要に応じてリハビリ課、看護課職員）
内容	毎月開催、必要に応じて回数増あり。
	●各フロアの検討課題、介護課会議、特養会議での伝達事項
	●ケアプランの進捗状況
	●フロア研修の実施
	●フロア内の業務調整（居室担当の業務進捗管理）



特養会議



関係職務・環境物品担当者			進捗管理
排泄管理	桑原幸一・杉浦友紀・芹川信一	フロアのパット表修正、必要物品の管理。毎月のパット発注のコスト管理	渡辺係長
入浴管理	二瓶典子・小野鈴花・斉藤陽介	入浴表、ボードの見直し、必要物品の管理。行事時の入浴調整	
倉庫・物品管理	玉井昭・山崎公介・鈴木祥未	消耗品の在庫、発注、コスト管理。倉庫内の整理、整頓	澤田係長
感染症管理	吉岡朝典・鈴木祥未・石川幸子	感染症物品の保管、補充管理。手順書などの修正	
エアーマット、センサー管理	山崎公介・川崎茉莉亜・佐藤弘美	エアーマット、各種センサーの使用者、保管場所の管理。修理手配	月岡係長
実習管理	小野鈴花・平島卓	実習受け入れ管理。実習に関する費用(手当など)集計、管理。	統括係長
車いす・TV管理	各フロア	全体的な台数、空き状況の管理。修理手配	
クッション管理	平島卓 リハビリ	車いすクッション、体交クッションの選定、管理、購入	統括係長

〈今年度予算〉（支出の部）

科目	積算内訳	予算額	備考
介護用品費支出	オムツ、パット類	¥7,500,000	
教養娯楽費支出	三大大行事・季節行事等・クラブ活動及び講師報酬	¥1,000,000	
合計		¥8,500,000	

※計上したものの以外の購入物品は注文何書、稟議書で管理と協議の上、調整すること。

(2) 行事スケジュール

<3大行事>

月	行事名(月日)	内 容	参加者	行事担当
7月	納涼祭 7月28日(土)	隣接している保育園の園庭を借り、盆踊りを開催し、入居者や地域の方に夏の風情を楽しんでもらう。	家族・地域 予算 ¥280,000 Vr	介護課/看護課/ 栄養課/管理課/ 地域連携課
9月	敬老会 9/16(日) 区長来苑/12:50~13:00	江戸川区長隣席のもと、利用者に対して畏敬の念を改めて認識するとともに利用者の長寿を願い式典を開催し、会食会ではご家族と楽しいひと時を過ごしてもらう	家族 予算 ¥30,000	介護課/看護課/ 栄養課/管理課
11月	江戸川光照苑祭 11月18日(日)	開かれた施設として地域住民に開放すると同時に協力と理解を求めていく。催し物や喫茶店、各種販売コーナーを設け、来客に楽しんでもらう。	家族・地域・Vr 予算 ¥90,000	居宅サービス部、 施設サービス部

<季節行事>

月	行事名(月日)	内 容	参加者	行事担当
4月	お花見 4月1日~10日	開花時期に合わせ日程と参加者を決め、近隣の桜が綺麗に咲いている所へ散策に行く。	家族・参加費有 予算 ¥5,000	相談支援課/介護課/看護課/ 栄養課/管理課
5月	端午の節句 5月5日(土)	兜やこいのぼりなどの装飾をし、端午の節句お祝いをする。	予算 ¥2,000	介護課
	菖蒲湯 5月4、5、7日	菖蒲湯につかり、未病息災を願う。	予算 ¥2,000	介護課
7月	七夕 7月7日(土)	願いを込めた短冊を笹に飾り、夏の風情を味わう。	予算 ¥5,000	介護課
	盆供養 7月13、15、16日	故人先祖の霊を迎えると同時に、新盆の方の供養を行う。(迎え火、送り火含む)	予算 ¥3,000	相談支援課/介護課/看護課/ 栄養課/管理課
8月	江戸川区花火大会鑑賞 8月4日(土)	屋上に出て夏の風物誌「江戸川花火大会」の観賞会をして楽しむ。	予算 ¥5,000	相談支援課/介護課/看護課/ 栄養課/管理課
	子供神輿見学 8月19日(日)	小岩地区の子供神輿を沿道に出て見学し楽しむ。	予算 ¥10,000	管理課/介護課
	天祖神社祭礼見学 8月19日(日)	北小岩天祖神社祭礼に利用者数名参加し楽しんで頂くと共に地域の交流を図る。	予算 ¥5,000	相談支援課/介護課/管理課
10月	善養寺菊見学 10月中旬~11月中旬	地元地域にある菊を鑑賞することで、季節感を味わってもらう。	予算 ¥5,000	相談支援課/介護課/管理課
12月	忘年会 12月16日(日)	季節感を感じて頂くと共に、家族を招き食事会を開催する。	予算 ¥10,000	相談支援課/介護課/看護課/ 栄養課/管理課
	ゆず湯 12月21、22、24日	柚子湯につかり、冬を元気に過ごせるように願う。	予算 ¥2,000	介護課
1月	初詣 1月の毎週日曜日	帝釈天と近隣の神社に分かれ一年の幸せや健康を祈願する。	予算 ¥10,000	相談支援課/介護課/看護課/ 栄養課/管理課
	餅つき大会 1月19日(土)	ボランティアの協力を得て餅つきを行い、利用者、地域の方々に食べてもらい健康を祝う。	予算 ¥15,000	相談支援課 介護課/管理課
2月	節分 2/2(土)	保育園児に来てもらい、豆まきを行い、一年の無病息災を祈る。	予算 ¥5,000	介護課 栄養課
3月	ひな祭り 3/2(土)	お雛様を飾り、季節感を味わう。	予算 ¥2,000	介護課

<個別行事>

月	行事名(月日)	内 容	参加者	行事担当
随時	外出支援	利用者個々の希望に沿った旅行や観劇、買い物等に付き添い、安心して外出を楽しんでもらう。費用は利用者実費負担とする。	家族・Vr参加費有 予算 ¥20,000	相談支援課/介護課/看護課/ 栄養課/管理課

*運転、付添いなどは、管理課にも協力依頼していく。

*行事計画は2ヶ月前の15日までに会議録を作成し、20日までに広報委員会に報告する。

各行事の担当表

行事名	企画担当部署	行事担当者	行事担当	進行管理
花見	相談支援課	芹川信一	桑原幸一	統括係長
菖蒲湯	介護課	吉岡朝典		統括係長
端午の節句	介護課	吉岡朝典		統括係長
菖蒲見学	介護課	鈴木祥未	桑原幸一	統括係長
七夕	介護課	川崎茉莉亜	比企野幹子	統括係長
盆供養	相談支援課	石川幸子	佐藤弘美	統括係長
納涼祭	相談支援課	鈴木祥未	澤田祐太・玉井昭・芹川信一 川崎茉莉亜・比企野幹子	統括係長
江戸川区花火大会	介護課	小野鈴花	齋藤陽介	統括係長
流しそうめん	栄養課・介護課	二瓶典子		統括係長
子ども神輿	管理課・介護課	杉浦友紀	二瓶典子	統括係長
敬老会	相談支援課	山崎公介	小野鈴花・月岡良江・杉浦友紀	統括係長
善養寺菊見学	介護課	川崎茉莉亜	桑原幸一	統括係長
江戸川光照苑祭	センター合同		渡辺雄士、吉岡朝典、山崎公介	統括係長
忘年会	介護課	石川幸子	渡辺雄士	統括係長
ゆず湯	介護課	吉岡朝典		統括係長
新年装飾	介護課	物品管理担当		統括係長
初詣	介護課	山崎公介	佐藤弘美・桑原幸一	統括係長
餅つき大会	介護課	玉井 昭	齋藤陽介・川崎茉莉亜	統括係長
節分	介護課	齋藤陽介	玉井 昭	統括係長
ひな祭り	介護課	石川幸子		統括係長
居酒屋	栄養課・介護課		各フロア担当者	統括係長

(3) クラブ活動 (音楽・化粧・お花・書道)

活動内容	
音楽	音楽講師（ボランティア）の協力を得て、利用者のリクエストに応えた、歌を合唱して楽しむ。
お花	ボランティアの協力を得て、季節の花々をアレンジメントし、お花を愛でて頂く。
書道	書道を通し字を書くことの楽しさを共感して頂く。
工芸	さまざまな作品の作成を通して物づくりの楽しさを共感して頂く。

各クラブ等の担当表

クラブ名	活動日	特養担当者名
書道クラブ	第2火曜	吉岡朝典 山崎公介
音楽クラブ	第4日曜木曜	杉浦友紀 齋藤陽介
お花クラブ	第4水曜	石川幸子
工芸クラブ	不定期	小野鈴花 川崎茉莉亜 芹川信一
繕い	第4木曜	佐藤弘美
音楽療法	第1・2・3月曜	桑原幸一 二瓶典子
季節行事		介護課・相談支援課

3. 看護

中長期計画	○看護・介護・機能訓練と連携した、褥瘡、皮膚疾患の発生防止・予防の強化 ○各セクションのチームケアにより、自然排便を促す食生活の推進
年度目標	
(1)	利用者の褥瘡発生予防のため、定期的に適正な評価を実施し、その結果に基づき計画的に管理する。
(2)	利用者の自尊心を守る大切な要素であるトイレ動作が少しでも自立につながるよう支援体制を構築する。
実施計画	
(1)	日常的に皮膚のケアについて指導（乾燥による皮膚トラブルの防止、保清、褥瘡の好発部位、保護クリームの使用）をし、利用者個々に褥瘡や皮膚状態の把握をした内容と主治医からの指示事項を毎月の特養会議で報告し、ケアプランに反映させる。
(2)	対象者の排便チェック、下剤、浣腸の使用頻度の把握をして、毎月の特養会議で報告、評価に役立てる。

〈今年度予算〉（支出の部）

科目	積算内訳	予算額	備考
医薬品費支出		¥300,000	
合 計		¥300,000	

4. リハビリテーション（個別機能訓練）

中長期計画	○介護技術の向上・適正な介護機器の導入及び使用・訓練実施、定着 ○看護・介護・機能訓練と連携した、褥瘡、皮膚疾患の発生防止・予防の強化
年度目標	
(1)	利用者個々に対する適正な介護方法・介護機器の使用方法を介護職員ともに確定し、介護負担の軽減を図る。
(2)	利用者の褥瘡発生予防のため、定期的に適正な評価を実施し、その結果に基づき計画的に管理する。
(3)	利用者の自尊心を守る大切な要素であるトイレ動作が少しでも自立につながるよう支援体制を構築する。
実施計画	
(1)	各利用者ごとにポジショニング（ベッド上、車椅子等）をコーディネートし、介護課と協働で体位交換・ポジショニング用のクッションの選定・購入・管理を行い、適正な使用方法を周知する。
(2)	褥瘡発生リスクを入所時および3ヶ月に1回評価・把握し、それをもとに多職種協働して褥瘡ケア計画を立案、実行する。計画は3ヶ月に1回モニタリングを行い、見直す。褥瘡委員会へ参加し、多職種と協働し体制を整える。
(3)	排泄介護を要する原因を分析し、その結果を踏まえ身体負担を軽減する機能訓練計画を策定し、実施する。ケアプランとの整合性を図り、各職種が担う介助及び訓練を協議の上決定し、実施し、ケアプランミーティングにて評価する。

〈今年度予算〉（支出の部）

科目	積算内訳	予算額	備考
消耗器具備品費支出	ポジショニング用クッション	¥200,000	
合 計		¥200,000	

5. 栄養（食事サービス・栄養ケアマネジメント・委託調理）

中長期計画	○利用者に美味しく、食べやすく、見た目よく、楽しく、栄養的にも満足される食事の提供と食を通しての健康の維持 ○各セクションのチームケアにより、自然排便を促す食生活の推進
年度目標	
(1) 自然排便を促す食事、栄養面の取り組み具体的に実施する。	
(2) 味、栄養面、安全性、食べやすさ等のバランスのとれた食事形態の確立。	
実施計画	
(1) 職種協働の自然排便を促す取組について、食事・栄養面での見学、研修参加を継続しながら評価表や個人別の取組などを、看護師、介護職、リハビリの職員で検討し明確にしていく。	
(2) ソフト食に替わる形態、軟菜食の内容の確立を具体的にしていく。ソフトに変わる形態は4月末迄に食べやすい硬さ、見目を確立。6月末迄に軟菜食の提供内容を具体的に決め7月～開始する。	
委託側と連携し利用者の食べやすさ、嗜好に合ったよりよい食事の提供(技術面、食材の選択など)を行う。 ①郷土料理、変わりご飯、赤飯は定期的に入れる。 ②刺身の日・リクエスト食もそのまま、 ③刺身のスタイルはちらしずし、にぎり、丼物も入れていく。 ④イベント食の具体的な実施。 ⑤食事提供に関するアンケートを9月に実施する。	

	予定	居酒屋	刺身の日・リクエスト食	駅弁・季節の献立	赤飯と変わりご飯	嗜好調査	害虫駆除	
4月								
5月								
6月		○	11月～3月迄が	季節の献立、郷土料理のどれかを月に1回以上実施	月に1回実施		○	
7月			月1回刺身の日、					
8月	流しそうめん		4月～10月迄が				○	
9月	長寿を祝う集い会食		月1回リクエスト食を実施。					○
10月							○	
11月								
12月	クリスマス忘年会							○
1月	もちつき							
2月		○						
3月								○

<今年度予算> (収入の部)

科目	積算内訳	予算額	備考
介護保険事業収入	12単位×30日×12か月×58人	¥2,505,600	栄養ケアマネジメント
介護保険事業収入	500単位×12か月×4人	¥24,000	経口維持加算ⅠとⅡ
合 計		¥2,529,600	

<今年度予算> (支出の部)

科目	積算内訳	予算額	備考
給食費支出	210000×12か月	¥2,100,000	給食材料(栄養補助)
	33000×12か月	¥396,000	給食材料(経管栄養)
	220円×125人×年2回	¥55,000	行事食加算
	行事2回+納涼祭+居酒屋2回+正月	¥100,000	ビール・ジュース代
保健衛生費支出		¥118,800	害虫駆除
合 計		¥2,769,800	

6. 家族会

年度目標

- (1) 家族会の在り方について、幹事、加入者の意見を踏まえて、今後の在り方を検討し、これからの家族会と施設との関係を構築していく。

《活動計画》

日程	活動	備考(内容など)
4月30日	会計報告書作成	
6月	第1回家族会総会	29年度事業報告・決算報告。30年度事業計画、事業予算。意見交換。
3月	第2回家族会	

〈今年度予算〉収入の部

科目	積算内訳	予算額	備考
会費	家族会費×50	¥200,000	
合	計	¥200,000	

〈今年度予算〉支出の部

科目	積算内訳	予算額	備考
	敬老会プレゼント代(共用できるもの)	¥60,000	
	正月用門松購入用	¥40,000	
	誕生日用プレゼント(70人分)	¥70,000	
	クリスマス用プレゼント(60人分)	¥30,000	
合	計	¥200,000	

VI. 短期入所生活介護事業

中長期計画	<p>○介護ロボット（見守り機器）の活用について介護職員の業務の効率化や効果測定方法など検討し活用方法を確立する。</p> <p>○夜間の医療処置への対応の強化として喀痰吸引等の実施できる職員の配置をし中重度者の受入をしていく。</p>
年度目標	
(1) 中重度・認知症高齢者が安心して生活できるショートステイの環境づくりをする。	
実施計画	
(1) 様々な状態の利用者に合わせた適正な見守り機器の選定の検討をする。	
(2) 中重度・認知症高齢者の受入について算定の活用をし喀痰吸引実施できる職員の配置を介護職員と検討し、受け入れ体制を整える。	

<今年度予算> (収入の部)

科目	積算内訳	予算額	備考
居宅介護料収入	まず平成30年度の年間要介護度別人数を算定（3月については10月の実績を参考）した。その数値に新しい介護報酬単価を乗じて総額を計算した後、年間利用率96.27%で除して、100%の金額を算定し、それに90%を乗じた後、処遇改善加算相当額を減じた。	¥27,789,173	介護報酬 送迎加算分も平成29年3月から平成30年2月までのものを考慮して算定
居宅介護料収入	居宅介護料収入と同様な過程で1割負担分を算出した後、処遇改善加算相当額を減じた。	¥3,087,686	利用者自己負担金
居宅介護料収入	介護報酬と1割負担分の各々の目標値の0.083倍したものを合算した。	¥2,562,779	介護報酬分と自己負担分の 処遇改善加算を合算した 数値
利用者等利用料収入	前年度の値を参考にした	¥6,030,969	食費
	前年度の値を参考にした	¥4,655,116	居住費
	前年度の値を参考にした	¥605,532	日用品費
	前年度の値を参考にした	¥151,921	おやつ代
	前年度の値に、50/90を乗じた。	¥61,214	TV利用料（平成30年1月から50円減少）
合 計		¥44,944,391	

Ⅶ. 居宅介護支援事業

中長期計画	○悪性腫瘍等、医療的なケアが必要な高齢者の増加の中で、利用者に対して適切なマネジメントの構築。
年度目標	
(1)	利用者・家族の代弁者として、医療関係者に対して、対等な連携ができるよう、医療的知識、技術、コミュニケーション力を身につける。
実施計画	
(1)	医療研修への参加に重点をおき、医療的知識を高める。
(2)	医療機関等におけるカンファレンスに参加した場合、医師の意向を適切に把握し、また家族の意向を十分に伝えられるようにする。

<今年度予算> (収入の部)

科目	積算内訳	予算額	備考
居宅介護支援介護料収入	¥12,005×1,008人	¥12,101,040	要介護1.2
	¥15,596×432人	¥6,737,472	要介護3.4.5
	¥4,412×24人	¥105,888	要支援1.2
	¥4,412×24人	¥105,880	事業対象者
	¥3,420×15人	¥51,300	初回加算
	¥4,560×1,440人	¥6,566,400	特定事業所加算
合 計		¥25,667,980	

<今年度予算> (支出の部)

科目	積算内訳	予算額	備考
雑支出		¥30,000	介護保険に関する書籍
合 計		¥30,000	

Ⅷ. 通所介護事業及び 総合支援事業通所介護サービス

中長期計画	<p>○高齢者在宅サービスセンター江戸川光照苑の特色の明確化と重度利用者受入れのため、職員個々の介護力の向上</p> <p>○利用者の生活行為向上のためのプロセスの共有と職種間の役割の明確化</p> <p>○定期的な栄養状態の確認と各セクションとの情報共有体制（ケアマネジャー含む）を確実なものとし、在宅での生活継続支援を強化する。</p>
年度目標	
(1)	職員の介護力向上と重度利用者の受入のために、個々の利用者のニーズを的確に捉え、重点目標と具体的な支援内容を通所介護計画に反映し、職員に周知し、実施する。
(2)	利用者が安全かつ有意義に過ごせるようデイサービス内の活動内容、環境整備、リハビリ環境、栄養食事環境を整備し、各職種の役割を明確化し、業務の円滑化を図る。
(3)	通所介護の特色を明確化し、居宅介護支援事業所と綿密な情報交換を行い、双方向の連絡調整を行うことで、利用率90%の実現を目指す。
実施計画	
相談	<p>① 通所介護計画作成者は作成前に職員から支援内容と効果について意見徴収をし、かつ利用者ニーズを的確に把握し、アセスメントを詳細に行い、適切な通所介護計画を作成し、職員に周知、実施させ、デイサービスの介護力の評価を行う。</p> <p>② デイサービスの活動内容、環境整備、リハビリ環境、食事栄養環境を見直し、整備することで業務内容と業務スケジュールを再構築する。通所介護連携ミーティングを定期的に行い、進捗の把握、評価、改善を行う。</p> <p>③ 利用者の生活支援に必要な情報（リハビリ、栄養、健康管理等）を担当ケアマネジャーに定期的に提供し、また担当ケアマネジャーが求めるニーズを常に把握できるようにする。</p>
介護	<p>① 新しい介護ソフト（タブレット含む）の機能を使用することで、通所介護計画の内容に沿った「サービス提供実施記録」や「モニタリング」を行い、利用者個々の特徴や介護方法を職員全員が把握する。</p> <p>② ア. 通所介護職員としての現状の業務、役割を精査する。 イ. デイサービス内の活動内容、環境整備、リハビリ環境、栄養食事環境を整備する。</p> <p>③ 事業計画に位置付けた活動計画（内容、担当者）を基に、毎月の通所介護連携ミーティングで実施内容の確認をした上で実施し、適正に評価する。</p>
看護	<p>① 利用者の心身状況や様子の変化、気づきを新しく導入する介護ソフトを活用してご家族へお伝える。またその内容（書式等）を職員間の情報共有とアセスメント、モニタリングに活用する。</p> <p>② 看護に必要な物品・機器を一覧化し、必要数量、残数、機器の故障時期、確認頻度等を明確にした上で、購入・修繕依頼を行い、他職種もわかる形で管理する。</p>

リハ	① 在宅生活の中での動作や困りごとを訪問することで明らかにする為に、通所介護内で訪問の調整、連携し、定期的かつ確実な訪問ができるようにスケジュール、視点、モニタリングの報告などを作成する。
	② 日常生活動作や行っている筋力運動をご自宅で活かしていける様に利用者個々に適した機能訓練プログラムを多職種協働で作成し、通所介護現場またはリハビリ室でできる機能訓練を機能訓練指導員を主に、他職種（介護・看護）も適切な介助・機能訓練ができるように体制を作る。
栄養	① 介護、看護、ケアマネとの連携により栄養改善加算の具体的に取り組む体制を構築し、年度内に加算取得をする。
	② 食事や栄養面でのアドバイスが必要なご利用者個々に連絡票を作成し、情報提供をする。

<今年度予算> (収入の部)

科目	積算内訳	予算額	備考
居宅介護料収入	基本単位×延人数×単価×0.9×0.9	¥49,470,770	介護報酬
	基本単位×延人数×単価×0.9×0.9	¥1,579,410	入浴加算
	基本単位×延人数×単価×0.9×0.9	¥1,155,893	サービス提供加算
	基本単位×延人数×単価×0.9×0.9	¥2,977,865	機能訓練加算（Ⅰ）
	基本単位×延人数×単価×0.9×0.9	¥967,972	機能訓練加算（Ⅱ）
		¥3,312,963	介護職員処遇改善加算
介護予防・日常生活支援総合事業収入	基本単位×延人数×単価×0.9×0.9	¥4,439,761	予防居宅介護報酬
	基本単位×延人数×単価×0.9×0.9	¥127,138	サービス提供加算
	基本単位×延人数×単価×0.9×0.9	¥386,269	運動器機能向上加算
		¥292,237	介護職員処遇改善加算
居宅介護料収入	基本単位×延人数×単価×0.1×0.9	¥6,607,208	自己負担金
介護予防・日常生活支援総合事業利用料収入	基本単位×延人数×単価×0.1×0.9	¥582,823	自己負担金
利用者利用料収入	延べ人数×¥600	¥4,670,400	利用者食事負担
	延べ人数×¥100	¥778,400	クラブ活動費
合計		¥77,349,109	

<今年度予算> (支出の部)

科目	積算内訳	予算額	備考
教養娯楽費支出		¥900,000	音楽療法
			学習療法
			各種クラブ活動
介護用品費支出		¥560,000	浴用タオル
			浴用バスタオル
			タオルケット
			清拭タオル
医薬品費支出		¥10,000	
土地建物賃借料支出	¥110,000×12カ月	¥1,320,000	
雑支出	季刊購読及び入会金	¥18,428	通所サービス&マネジメント
合計		¥2,808,428	

※計上したものの以外の購入物品は注文何書、稟議書で管理と協議の上、調整すること。

一般通所（ふれあい）年間活動予定表

外出行事	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	桜見学	浅沼	野上	富浦見学	浅沼	浅沼	浅沼	浅沼	野上	浅沼	初詣	買い物
季節行事	花まつり	端午の節句 (菖蒲湯) /母の日	父の日	七夕	夏祭り	長寿の祝い	ミニ運動会		お楽しみ会	正月	節分	ひな祭り
	野上	浅沼	野上	浅沼	野上	渡辺	渡辺		浅沼	野上	野上	浅沼
レクリエーション	パターゴルフ	巻き巻きゲーム	ホーリング	パターゴルフ	巻き巻きゲーム	ホーリング	パターゴルフ	巻き巻きゲーム	ホーリング	パターゴルフ	巻き巻きゲーム	ホーリング
おやつ作り				野上・嘉村		渡辺・浅沼			渡辺・本橋			野上・嘉村
【月刊デイ】を参考に提供												
各クラブ活動												
頭の健康体操	野上	浅沼	本橋	渡辺	嘉村	本橋	本橋	渡辺	本橋	浅沼	野上	渡辺
手芸	本橋	渡辺	渡辺	浅沼	浅沼	嘉村	渡辺	嘉村	野上	渡辺	渡辺	嘉村
クラブト	嘉村	嘉村	野上	本橋	本橋	野上	野上	浅沼	渡辺	本橋	浅沼	野上
カラオケ	浅沼	浅沼	浅沼	嘉村	嘉村	嘉村	本橋	本橋	本橋	野上	野上	野上
囲碁/将棋	浅沼	浅沼	浅沼	嘉村	嘉村	嘉村	本橋	本橋	本橋	野上	野上	野上
絵手紙	野上	野上	野上	渡辺	渡辺	渡辺	浅沼	浅沼	浅沼	渡辺	渡辺	渡辺
誕生会	翌月誕生日を迎える方の写真撮影、プレゼント準備											
音楽療法	渡辺（佐藤・山内） （予定表に沿って実施）											

Ⅸ. 認知症対応型通所介護事業

<p>中長期計画</p>	<p>在宅生活の安定した継続支援の確立とサービス提供の差別化（個別化）。事業所が培ってきたノウハウや利用することでのメリットを発信し、地域の方々に認知され、安心や信頼感を与える事業所となる。</p>
<p>年度目標</p>	
<p>(1)</p>	<p>利用者が安定した在宅生活が継続できるよう、一人一人に合ったサービス提供の個別化を図り、事業所の特色として発信していくことで、利用率85%の実現を目指す。</p>
<p>(2)</p>	<p>個別性のある通所介護計画（目標設定、具体的内容の設定）の立案と介護記録との連動を構築し、その内容をご家庭や居宅介護支援事業所に適切且つ効率的に伝達できるシステムを構築する。</p>
<p>実施計画</p>	
<p>相談</p>	<p>① 基本報酬のサービス提供時間区分を「8時間以上9時間未満」とすることによる、メリット、デメリットを詳細に見極め、その対応を具体的に考案するとともに、職員、利用者にとっても有効かつ効率的な業務スケジュールを作成し、運用実施する。</p>
	<p>② 運営推進会議等での情報収集により、近隣の学校や子供会の行事、地域行事に参加できる体制を作る。</p>
	<p>③ ご家族に在宅生活が継続できるような情報を多職種連携で発信するとともに、デイサービスでの様子がよりわかるように、相談できる機会（相談会）を設け、実施する。</p>
<p>介護</p>	<p>① 通所介護計画の内容に沿った「サービス提供実施記録」や「モニタリング」になるよう、新しい介護ソフト（タブレット含む）の機能を使用することで、家族への情報提供（連絡票等）を適切に行う。</p>
	<p>② 地域や学校で行われるイベントに、活動の一環として利用者と参加することで、認知症対応型通所介護事業所の存在を地域の方々に認知してもらうようにする。</p>
	<p>③ 事業計画に位置付けた活動計画（内容、担当者）を基に、毎月の通所介護連携ミーティングで実施内容の確認をした上で実施し、適正に評価する。</p>
<p>看護</p>	<p>① 利用者の心身状況や様子の変化、気づきを新しく導入する介護ソフトを活用してご家族へお伝える。またその内容（書式等）を職員間の情報共有とアセスメント、モニタリングに活用する。</p>
	<p>② 看護に必要な物品・機器を一覧化し、必要数量、残数、機器の故障時期、確認頻度等を明確にした上で、購入・修繕依頼を行い、他職種もわかる形で管理する。</p>
<p>リハ</p>	<p>① 在宅生活で困窮されている動作や個人ニーズに沿った機能訓練計画を立案し、実施する。その内容の中で、利用者の様子やご家庭での介助方法などをご家族へ定期的に提供する。</p>
	<p>② 利用者個々に適した機能訓練プログラムを多職種協働で作成し、機能訓練指導員だけでなく、他職種（介護・看護）も適切な介助・機能訓練ができるように体制を作る。</p>

栄養	① 介護、看護、ケアマネとの連携により栄養改善加算の具体的な取り組む体制を構築し、年度内に加算取得をする。
	② 食事や栄養面でのアドバイスが必要なご利用者個々に連絡票を作成し、情報提供をする。

<情報発信計画>

4月	職員紹介	介護
5月	家庭でできる体操①	リハビリ
6月	脱水	看護
7月	食中毒	栄養
8月	認知症	介護
9月	家庭でできる体操②	リハビリ
10月	低栄養	栄養
11月	感染性胃腸炎	看護
12月	ｲﾝﾌﾙｴﾝزا	看護
1月	認知症	介護
2月	家庭でできる体操③	リハビリ
3月	食物繊維と腸内細菌	栄養

<今年度予算> (収入の部)

科目	積算内訳	予算額	備考
地域密着型介護料収入	基本単位×延人数×単価×0.9×0.85	¥35,407,357	介護報酬
	基本単位×延人数×単価×0.9×0.85	¥1,030,968	入浴加算
	基本単位×延人数×単価×0.9×0.85	¥567,511	サービス提供加算
	基本単位×延人数×単価×0.9×0.85	¥867,451	機能訓練加算
		¥3,938,822	介護職員処遇改善加算
介護負担金収入	基本単位×延人数×単価×0.1×0.85	¥4,645,791	自己負担金
利用者等利用料収入	延人数×600	¥1,893,600	利用者食事負担
	延人数×100	¥315,600	レクリエーション費
合 計		¥48,667,100	

<今年度予算> (支出の部)

科目	積算内訳	予算額	備考
教養娯楽費支出		¥750,000	音楽療法等
介護用品費支出		¥280,000	浴用タオル
			浴用バスタオル
			タオルケット
			清拭タオル
医薬品費支出		¥10,000	ウェットおしぼり
合 計		¥1,040,000	

※計上したものの以外の購入物品は注文何書、稟議書で管理と協議の上、調整すること。

認知症対応型通所（くつろぎ） 年間活動予定表

外出行事	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	桜見学 佐藤	ハラ見学 小泉	菖蒲見学 佐藤	／	／	／	／	／	菊見学 野澤	／	初詣 小泉	／
季節行事	花まつり 小泉・高橋	端午の節句 (菖蒲湯) /母の日 佐藤・野澤	父の日 佐藤	七夕 高橋	夏祭り 野澤・小泉	長寿の祝い 佐藤	運動会 高橋	／	お楽しみ会 佐藤・野澤	正月 小泉・高橋	節分 小泉	ひな祭り 高橋
装飾作り	翌月の装飾（手芸、クラフト）											
レクリエーション	前月の会議、協議にて決定											
おやつ作り	野澤	小泉・高橋	佐藤	佐藤・野澤	佐藤・高橋	小泉・高橋	小泉	野澤	佐藤	高橋	小泉	高橋
干支カレンダー	前月の会議、協議にて決定		／		／		／		前月の会議、協議にて決定		／	
	小泉	高橋	／		／		／		佐藤	高橋	小泉	野澤
誕生会	個人制作、共同制作、活動風景（レク、外出、頭、頭の健康体操、カラオケ、絵手紙、囲碁・将棋等）の写真撮影											
音楽療法	毎月第一水曜日、第二木曜日、第三金曜日（予定表に沿って実施）											

X. 江戸川区委託事業

1. 地域包括支援センター事業（熟年相談室）

中長期目標	○地域活動の充実のため、地域の活動団体との役割分担の整理 ○困難ケースに対応するため、課題を的確に捉えられるような人材育成の確立。 ○地域包括ケアの要としての業務が円滑にできるようにするため、委託業務量及び業務内容について精査し、江戸川区へ働きかける。
-------	--

年度目標

- (1) 地域での高齢者を支える地域活動団体等との連携体制の強化と拡充。
- (2) 委託業務内容と業務量を精査し、内容を分析し、他の地域包括支援センターとの課題の共有化を図る。
- (3) 地域包括相談員としての各個人の力量の向上のために人材育成を強化する。

実施計画

- (1) 各地域の特性を考察し、それぞれの特性を活かした活動を働きかける。またその際にどのような役割を担うのが妥当なのかを検討し、周知することで地域の中での役割を充実させる。
- (2) 現在委託されている全ての業務内容と業務量を精査するとともに、包括課内の業務運営を比して、ムリ、ムダ、ムラを明らかにし、業務を確定させる。また精査の結果を資料とし、地域包括実務担当者会議で提示する。
- (3) 各個人の強み、弱みを評価し、それに即した人材育成のためのプログラム及びスケジュールを作成し、個人に合わせた教育を実施、定期的に進捗状況を確認することで、力量の向上を図る。

スケジュール

- 5月 西小岩まつり
 6月 小岩菖蒲園まつり
 7月 小岩第4地区民生児童委員との懇談会
 11月 地域連携会議
 12月 京成小岩駅前商店街まつり
- (1) 2月 小岩第2地区民生児童委員との懇談会
 開催月未定
 事業者間情報交換会（江戸川区全域 1回、小岩地区 2回）
 ・地域サロンの担当者、日程を4月中に確定する。また、新たな地域支援者については7月までに定期会議で検討し、地域支援者と共に企画について具体化する。下半期で活動実施。
 ・現在の業務内容を洗い出し、行うべき担当者を調整し業務整理をする。

《年間活動予定》

活動内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主任ケアマネ部会							○					○	第3金曜日
保健師部会			○			○		○			○		第3水曜日
社会福祉士部会		○		○		○		○			○		第3火曜日
地域包括実務担当者会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	第1木曜日
虐待事例検討会											○		
介護者交流会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	第3金曜日
介護予防教室		○	○	○		○	○	○					
民生委員懇談会				○							○		
運営推進会議													各開催時（6事業所×2回）
GH運営推進会議		○		○		○		○		○		○	第4金曜日
小岩地区包括会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	第2月曜日
地域連携会議								○					
地域ケア会議													状況により変動
地域まつり		○	○						○				西小岩・菖蒲園
サービス事業者情報交換会						○			○		○		

〈今年度予算〉（収入の部：地域包括支援センター 受託事業収入）

科目	積算内訳	予算額	備考
受託事業収入	¥54,000×6回	¥324,000	介護予防教室
	¥1,000×5回×12ヶ月	¥60,000	地域力向上経費
	¥1,400,000×12ヶ月	¥16,800,000	総合相談支援経費
	¥30,000×2回	¥60,000	民生委員懇談会
	¥100,000×12ヶ月	¥1,200,000	権利擁護対応支援
	¥110,000×12ヶ月	¥1,320,000	ケアマネジメント支援
	¥7,000×2件	¥14,000	地域ケア会議
	¥150,000×1回	¥150,000	地域連携会議
	¥30,000×3回	¥90,000	事業者情報交換会
	¥50,000×3回	¥150,000	地域まつり
	¥5000×25回+¥3,000×30回	¥215,000	地域活動
	¥95,000×12ヶ月	¥1,140,000	任意事業費
	¥800×60件×12ヶ月	¥576,000	事業者関係事務費
	¥4,200×5件	¥21,000	認定調査
	¥2,000×15件	¥30,000	住宅改修
	¥105×1件	¥105	保険料徴収
	¥1,200,000×1回	¥1,200,000	相談受付件数加算
	¥57,000×12ヶ月	¥684,000	分室賃料助成
¥200,000×12ヶ月	¥2,400,000	地域連携調整事業経費	
¥400,000×12ヶ月	¥4,800,000	認知症地域支援推進員	
合計		¥31,234,105	

〈今年度予算〉（収入の部：地域包括支援センター 総合事業）

科目	積算内訳	予算額	備考
介護予防・日常生活支援 総合事業収入	¥8,322×20名	¥166,440	要支援認定新規
	¥4,902×140名×12ヶ月	¥8,235,360	要支援認定継続
	¥8,322×20名	¥166,440	事業対象者新規
	¥4560×50名×12か月	¥2,736,000	緩和型利用
合計		¥11,304,240	

〈今年度予算〉（支出の部：地域包括支援センター）

科目	積算内訳	予算額	備考
土地建物賃借料支出	¥114,000×12ヶ月	¥1,368,000	西小岩分室賃料
雑支出	¥5,000×12回	¥60,000	介護者交流会
	¥2000×6回+¥30000	¥42,000	介護予防教室
	¥8,000×2回	¥16,000	民生委員懇談会
		¥15,000	地域活動
	¥20,000×1回+¥5,000	¥25,000	地域連携会議
業務委託費支出	¥7,490×3名+¥4,412×60名×12ヶ月	¥3,446,280	介護予防ケア外委託
合計		¥4,972,280	

〈今年度予算〉（収入の部：指定介護予防支援事業所）

科目	積算内訳	予算額	備考
居宅介護支援介護料収入	¥8,322×3名	¥24,966	新規
	¥4,902×80名×12ヶ月	¥4,705,920	継続
合計		¥4,730,886	

〈今年度予算〉（支出の部：指定介護予防支援事業所）

科目	積算内訳	予算額	備考
業務委託費支出	¥7,490×3名+¥4,412×39名×12ヶ月	¥2,154,696	介護予防給付委託
合計		¥2,154,696	

※計上したものの以外の購入物品は注文伺書、稟議書で管理と協議の上、調整すること。

2. 虚弱者向け配食サービス（高齢者の支援）

中長期目標	○利用者及び家族にとっての最善のサービスの実現のために、職員が高齢者にとって適切な対応ができるよう、人材の育成を図る。
年度目標	
(1) 配食サービスの充実拡大を図り、さらに喜ばれる配食サービスを目指していく	
(2) 地域社会に求められる配食サービスの充実を図っていく	
実施計画	
(1) 生活支援と見守り等の視点から配食時におけるサービスの変化に対応していく為に、利用者個々の状況とニーズをきめ細かく把握し、適切な配食サービスを行う。	
(2) 配食サービスの対象者が重度化してきている事から基本的な知識を身に付けるために配達職員との勉強会を行い、配食サービスの業務をする際に意識する。	

月	勉強会（4回）	チラシ配布
4月	○ 「高齢者について」	
5月		
6月		食中毒注意
7月		
8月	○ 「感染症について」	
9月		
10月		
11月		
12月	○ 「認知症について」	ノロウィルス注意
1月		
2月		
3月	○ 「配食の意義について」	

〈今年度予算〉（収入の部）

科目	積算内訳	予算額	備考
受託事業収入（公費）	¥200×60食×293日	¥3,516,000	平日配食分
	¥200×20食×23日	¥92,000	祝日配食分（1/1～1/3除く）
	¥46,800×12ヶ月	¥561,600	配食サービス事業経費
受託事業収入（一般）	¥600×60食×293日	¥10,548,000	食費平日配食分
	¥600×20食×23日	¥276,000	食費祝日配食分
合 計		¥14,993,600	

〈今年度予算〉（支出の部）

科目	積算内訳	予算額	備考
給食材料費	¥250×60食×293日+¥250×20食×23日	¥4,510,000	利用者
車両費支出		¥418,460	ガソリン代、定期点検等
車両費支出		¥114,460	保険料
土地建物賃借料支出	¥16,000×2台×12ヶ月	¥384,000	月極駐車料金
合 計		¥5,426,920	

Ⅵ. 各事業共通項目

1. 品質管理

(1) 品質管理室

中長期計画

○品質管理室会議を中間管理職（課長級）の育成及びレベルアップの場として、その仕組みを明確化する。
○職務分掌内規を再作成し、それぞれの部署・役職ごとに果たすべき役割や責任（職責）、権限（職権）を明らかにし、職務分掌を適正に運用して業務を効率化していく。

年度目標

- (1) 各業務に精通した中間管理職（課長級）を中心とした会議としての位置づけを、参加者に理解させ、広い視野で施設の課題を抽出、議論し、苑の方向性を明らかにしていく。
- (2) それぞれの部署の業務内容を明らかにし、各役職ごとの役割、責任、権限を設定し職務分掌内規を完成する。

実施計画

- (1) 毎月開催の品質管理室会議の準備段階で各中間管理職は自部署の課題を抽出し、資料提示をする。苑全体の問題として捉え議論をし、課題解決案を経営幹部会議に呈示する。
- (2) 現状の職務分掌内規を精査し、各事業の業務を再設定する。併せて役職ごとの役割、責任、権限を設定する。素案ができれば品質管理室会議内で検討し、12月までに完成させる。

(2) 経営幹部会議/職員会議

実施計画

- (1) 苑内の経営課題やリスクを明確化し、情報共有と適切にマネジメントするために江戸川光照苑の幹部層による最高決定機関として経営幹部会議を設置、運営する。（毎月第二金曜日実施）各部署、情報共有の仕組みを構築し、会議の決定事項を確実に伝達、周知する。
- (2) 苑内の経営課題やリスクを明確化し、適切に職員に伝達し、情報共有を図るために江戸川光照苑の全職員を対象とし、職員会議を設置、運営する。（開催月は報告内容次第で決定、実施する）各部署、情報共有の仕組みを構築し、会議の決定事項を確実に伝達、周知する。

(3) 目標管理

実施計画

- (1) 各事業において、事業計画策定時に設定した目標について検証を行い次期の事業活動に反映させる。

日付	内容
4月	目標管理事項および検証内容の確定
7月	課題分析
9月	財務分析（前年度実績対比、予算対比）および前回課題進捗状況、次期に向けての課題分析
11月	前回課題進捗状況、次期に向けての課題抽出
1月	実績を踏まえての翌年度事業計画検討
3月	年度実績に反省・事業報告検討

(4) 内部監査

実施計画

- (1) 全事業、全部署を対象に品質管理室会議内で内部監査項目を検討し、組織内の業務遂行やサービス提供のプロセスを適切かつ効果的に遂行されているか検査し、業務改善を確実に行う。
- (2) 品質管理室会議に参加する中間管理職（課長級）を内部監査員とし、自部署のみでなく他部署を監査することにより、施設全体の課題を把握し、業務改善の提案ができるようにする。

内部監査 平成30年10月中旬実施

【対象部署】

- ①管理課 ②相談支援課 ③介護課 ④看護課 ⑤リハビリテーション課 ⑥品質管理室
⑦通所介護課 ⑧居宅介護支援課 ⑨地域包括支援センター課（分室含む） ⑩栄養課

〈今年度予算〉（支出の部）

科目	摘要	積算内訳	予算額	備考
雑支出	第三者評価受審費	1事業所（平成30年度は特養のみ）	¥600,000	
	合 計		¥600,000	

2. 管理部

(1) インフラストラクチャー（設備管理）

中長期計画 ○各部門からのニーズ把握を十分行った上で、予算案を作成し、予算との連動並びに進捗管理の体制を強化する。

年度目標

- (1) 職場環境整備も視野に入れて、修繕費・固定資産・備品購入について無駄のない執行を確実に行う。
- (2) 予算に基づく執行管理、進捗管理を明確にするために、だれが見ても進捗状況が把握できるように、新たに「H30依頼品目管理表」を再作成し運用していく。

科目	摘要	積算内訳	予算額	備考
消耗器具備品費	リースアップ 済みノート PC一部購入入替	26台中10台分入替 90000円X10台	900,000	特養4台、通所2台、居宅2台、地域包括2台
消耗器具備品費	地域福祉部 相談室 椅子	5台	75,000	
消耗器具備品費	地域福祉部 相談室 収納キャビネット	2台	50,000	
消耗器具備品費	分室 収納キャビネット	2台	50,000	
消耗器具備品費	事務用椅子	センター棟15台、特養棟 10台	150,000	
消耗器具備品費	スクリーン（衝立）	4台（通所）	80,000	
消耗器具備品費	セラバンド	赤・黄 46m	30,000	
消耗器具備品費	デジタル血圧計	リハビリ課 水銀計を時間短縮のため変更購入	10,000	

消耗器具備品費	標準車椅子	5台	177,500	
消耗器具備品費	マットセンサー等	3セット	111,000	
消耗器具備品費	椅子センサー	3台	36,000	
消耗器具備品費	特浴ストレッチャー充電池	2台	60,000	
消耗器具備品費	全体	通常購入品	3,570,500	
消耗器具備品費			5,300,000	
修繕費	全体	冷却塔薬洗・Vベルト交換	730,000	
修繕費	全体	加圧給水ポンプ(オーバーオール)	650,000	
修繕費	全体	ヒートポンプメンテナンス(室内外機フィン洗)	250,000	
修繕費	全体	キュービクル設備内交換修理工事 特養棟・センター棟	1,300,000	
修繕費	特養・センター棟 内加圧工事	特養・センター棟2階ふれあい室、1階リハ 室、特養2, 3階職員室	150,000	
修繕費	センター棟利用者トイレ 面所の温水化整備	5か所(利用者トイレ)	1,000,000	
修繕費	センター棟ドア修繕	老朽化に伴う交換 センター棟9か所	1,000,000	
修繕費	特浴温水ヒーター 撤去	撤去のみ	200,000	
修繕費	食器消毒乾燥庫	基盤スイッチ交換工事	170,000	
修繕費	ガスコンロガス管 交換	調理室	100,000	
修繕費	特養棟センター棟 LED化		2,500,000	
修繕費			8,050,000	
固定資産	レックプレス	介護予防用トレーニングマシン	155,000	
固定資産	アダクター& アダクター	介護予防用トレーニングマシン	138,000	
固定資産	ローワーバッグ	介護予防用トレーニングマシン	300,000	
固定資産	フリクサー	ペースト食対策用ミキサーマシン	210,000	
固定資産	スチーム コンベクション	老朽化に伴う交換	2,100,000	
固定資産			2,903,000	
ファイナンス債務	全体	介護ソフト入替導入の検討(6か月相当分)	1,150,000	総額12,000,000円のうち 5年償却として
ファイナンス債務	全体	電話機リース	636,000	
ファイナンスリース債務			1,786,000	

事業費賃借料	特養	車両リース料(2622)	876,000	月額73,000円
事業費賃借料	通所	車両リース料(2040)	372,000	月額31,000円
事業費賃借料	管理	車両リース料(3151)	780,000	月額65,000円
事業費賃借料	特養	TVレンタル	344,400	月額28,700円
事業費賃借料	特養	防災カーテン	648,000	月額54,000円
事業費賃借料			3,020,400	月額17,001円
事務費賃借料	全体	PCサーバー(特養2階ファイルサーバーネットワーク)	204,000	月額17,000円
事務費賃借料	全体	玄関マット	264,000	月額22,000円
事務費賃借料	全体	業務用加湿器	360,000	月額30,000円
事務費賃借料	全体	食器洗浄機	150,000	H30.5.31付けでリースが 後1年更新
事務費賃借料	全体	プリンターリース	564,000	月額47,000円(コピー機2台、ファイアーウォール、分室1台)
事務費賃借料	全体	すこやかサンソフト サーバー1台 PC18台	150,000	H30.3.31付けでリースが 後1年更新
事務費賃借料	全体	すこやかサンPC 8台	140,000	H30.3.31付けでリースが 後1年更新
事務費賃借料			1,832,000	
委託費	特養	第三者評価受審	600,000	
委託費	全体	清掃業務	1,722,600	
委託費	全体	ビル管理	4,665,060	
委託費	全体	夜間警備	1,960,200	
委託費	全体	リハビリ委託	2,073,600	
委託費	全体	ゴミ処理委託	1,800,000	
委託費	全体	会計業務委託	2,500,000	
委託費	全体	ストレスチェック関係業務	135,000	
委託費	全体	委託給食	41,472,000	
委託費	全体	ホームページ保守委託	116,640	
委託費			57,045,100	
合 計			¥79,936,500	

(2) 労務管理

中長期計画	○人材確保が容易となるよう、必要な資格要件者に対し、学校訪問など、求職アプローチを確実なものとしていく。また、各部門における必要な人材の把握を常に行い、都度人材採用計画を明確にしていく。
年度目標	
(1) 確実な職員確保をめざす。	
(2) コンプライアンス上の配置基準・加算基準を明確にする。	
実施計画	
(1) (職員採用に関して) 介護養成校(下記記載の13校)と情報交換をし、学校訪問を実現し、求職ルートの確立を目指す。	
(2) (人材採用計画の作成。明確化) 各事業部より、都度必要な人材を把握し、計画を作成し採用活動につなげていく。	
(3) (コンプライアンスに関して) 配置基準・加算基準に沿った算定表(チェックリスト)を事業所ごとに明確化し、毎月作成された勤務表を基に作成し、法令順守されていることを確認する。	

対象とする養成校一覧(17校 千葉県方面も含む)

(東京福祉専門学校・読売理工医療福祉専門学校・日本福祉教育専門学校・
東京福祉保育専門学校・大原医療秘書福祉保育専門学校・首都医校・
彰栄保育福祉専門学校・東京医療秘書福祉専門学校)
他 千葉県北西部周辺の育成校(植草学園短期大学・江戸川大学総合福祉専門学校
松山学園松山専門学校・中央介護福祉専門学校・京葉介護福祉専門学校)

採用ルート

- ①ハローワークでの募集
- ②東京都(千葉県含む)福祉人材センター・東京都ナースバンクへの登録募集
- ③養成校及び実習校への求人票配布・訪問
- ④求人情報会社(ネットへの掲載含む)への登録掲載
- ⑤求人広告(オリコミ・ネット)の利用
- ⑥人材紹介・派遣会社への求人依頼

3. 災害対策

(1) 防災委員会の実施/防災訓練

中長期計画	○全職員が、災害時に対する意識を高め、災害時における役割を理解し、行動できる。
年度目標	
(1) 火災時に、利用者の避難誘導を安全に行えるようにする。	
(2) 事業継続計画（BCP）が浸透し理解を深めることで、各職員が災害時の役割を理解し行動できる。	
(3) 図上演習（ファイヤーイメージゲーム）と定例の訓練において、各委員が指導と助言ができるくらいに技術を向上させる。	
実施計画	
(1) 委員会内で、F・I・Gのトレーニングと訓練シナリオの確認を実施することで、火災時の行動を理解する。	
(2) BCP、防災に関する研修実施、毎月の訓練は、計画に沿って実施と評価をすることで職員の防災意識を向上させていく。	

<年間防災訓練計画>

日付	訓練内容	消防署要請	備考
4月	水消火器での消火訓練、	有	全職員
	ファイヤーイメージゲーム（図上演習）	無	委員会内
	設備、備品等の確認	無	新入職職員、他
5月	火災時の通報、避難訓練（夜間）	有	特養職員、利用者
	ファイヤーイメージゲーム（図上演習）	無	委員会内
6月	火災時の通報、避難訓練（夜間）	有	特養職員、利用者（警備員、IPS含む）
	ファイヤーイメージゲーム（図上演習）	無	委員会内
7月	火災時の通報、避難訓練（昼間）	有	特養職員、利用者
	ファイヤーイメージゲーム（図上演習）	無	特養棟職員
8月	火災時の通報、避難訓練	有	センター職員、利用者
	ファイヤーイメージゲーム（図上演習）	無	センター棟職員
10月	BCP（BCPに基づいた訓練）	有	全職員
	設備、備品等の確認	無	新入職職員、他
11月	水消火器での消火訓練、	有	全職員
	北小岩保育園児の水害時避難訓練	無	全職員
12月	火災時の通報、避難訓練（夜間）	有	特養職員、利用者
	地域との総合防災訓練	有	全職員
1月	火災時の通報、避難訓練（昼間）	有	特養職員、利用者
2月	火災時の通報、避難訓練	有	センター職員、利用者
3月	BCP（BCPに基づいた訓練）	有	全職員

<地域との防災会議>

日付	会議内容	会議参加者
6月	防災会議（今年度の計画報告、意見交換）	地域関係者、消防関係、施設職員
11月中旬	防災会議（総合防災訓練実施打ち合わせ、相互協力の確認）	地域関係者、消防関係、施設職員

<消防団員の年間計画>

日付	計画事項	日付	計画事項
4月	3分団定例総会・2部懇談会	10月	江戸川区区民祭り/合同点検/上級救命
5月	定例訓練	11月	北小岩祭り/震災消防演習
6月	定例訓練	12月	年末火災予防運動
7月	定例訓練	1月	小岩消防団始式/親睦会旅行
8月	定例訓練	2月	若手団員意見交換会
9月	上小岩小学校総合避難、防災訓練	3月	春の防火予防運動

<防災用備蓄食糧在庫表> (100名×5日分)

品名	個数	納入日	賞味期限	保管場所
パン缶救缶鳥(2号)15缶入り×4箱	60缶	H29.3.21	H32.3.31	特養B1・特養1F・特養2F・特養3F・センター2F
えいようかん 60g×5個入×40箱	200個	H29.3.10	H34.8.20	特養B1・特養1F・特養2F・特養3F・センター2F
カロリーメイトゼリーアップル215g×6個×20箱	120個	H29.11.20	H30.5.24	特養B1・特養1F・特養2F・特養3F・センター2F
アルファ米 白飯5kg(50食分)	2	H29.3.30	H34.8	特養B1
アルファ米 エピピラフ5kg(50食分)	1	H25.5.21	H30.5	特養B1
アルファ米 ドライカレー5kg(50食分)	1	H27.9.19	H32.2	特養B1
アルファ米 五目御飯5kg(50食分)	1	H29.3.30	H34.8	特養B1
アルファ米 五目御飯5kg(50食分)	1	H28.3.7	H33.7	特養B1
アルファ米 山菜おこわ5kg(50食分)	1	H28.1.19	H33.7	特養B1
アルファ米 白粥 ^α 40g→粥で320g	200	H26.9.19	H32.1	特養B1
アルファ米 白粥 ^α 40g→粥で320g	100	H24.9.19	H29.8	特養B1
アルファ米 白粥 ^α 40g→粥で320g	100	H29.3.30	H34.8	特養B1
保存用けんちん汁レトルト(250g)	45	H27.1.19	H30.1.16	特養B1
保存用けんちん汁レトルト(250g)	45	H29.3.10	H32.1.7	特養B1
保存用豚汁レトルト(250g)	90	H29.3.10	H32.1.7	特養B1
スーパー保存水2ℓ	222	H26.9.19	H31.9.1	特養B1
スーパー保存水2ℓ	6	H28.3.7	H33.6.21	特養B1
スーパー保存水2ℓ	6	H27.3.7	H32.4.21	特養B1
スーパー保存水500ml	888	H29.3.10	H34.7.28	特養B1・特養1F・特養2F・特養3F・センター2F
ウィンナー缶(105g)	36	H28.3.7	H30.11.25	特養B1
ウィンナー缶(105g)	48	H29.3.10	H31.11.24	特養B1
さんま蒲焼T2k缶(1400g)	1	H29.3.11	H31.12.9	特養B1
鯖みそ煮缶T2k缶(1410g)	1	H29.3.11	H31.11.24	特養B1
いわし味付け缶T2k缶(1400g)	1	H29.3.11	H32.1.1	特養B1
カレー1号缶(3000g)	3	H28.7.15	H31.5.3	特養B1
カレー1号缶(3000g)	6	H28.3.7	H33.6.21	特養B1
スーパー保存水500ml	1008			
パン缶救缶鳥(2号)15缶入り×4箱	105缶			
えいようかん 60g×5個入×40箱	200個			
カロリーメイトゼリーアップル215g×6個×20箱	210個			
アルファ米 山菜おこわ5kg(50食分)	1			
アルファ米 ドライカレー5kg(50食分)	1			
アルファ米 白粥 ^α 40g→粥で320g	200			
保存用けんちん汁レトルト(250g)	45			
保存用けんちん汁レトルト(250g)	45			
さんま蒲焼T2k缶(1400g)	3			
鯖みそ煮缶T2k缶(1410g)	3			
いわし味付け缶T2k缶(1400g)	3			
かつお味付けフレーク缶T2k缶(1400g)	3			
野菜ジュース(200mlパック)	648本			

備蓄品追加分

<今年度予算>(支出の部)

科目	積算内訳	予算額	備考
給食費支出		¥300,000	備蓄食糧
消耗器具備品費支出		¥19,400	AED/パット
雑支出		¥240,000	下記購入物品参照
合計		¥559,400	

《購入物品リスト》

NO.	物品名	個数	備考
1	炊き出し訓練材料費	1	
2	拡声器災害対策用2台	2	
3	医薬品セット×4	4	
4	簡易トイレ×900	900	
5	カセットガスポンペ	5	
6	災害用ブランケット×50	50	
7	ヘッドライト	10	
8	水用ポリタンク	5	
9	照明用品	1	
10	乳幼児用品	1	ミルク、オムツ
11	ボール	2	
12	ハンマー	2	
13	総合防災訓練雑費等	1	お土産代
14	その他備品	1	
合計金額			¥240,000

4. 広報活動

(1) 広報委員会

中長期計画	○高齢者をとりまく環境変化の問題提起としての情報発信と人材確保に通じる情報発信ができる。 ※平成30年度より、中長期計画の立案はしないが、重点目標として、設定した。
年度目標	
(1)	季刊広報誌を確実に発行し、毎号に特集記事として、高齢者を取り巻く環境変化に係る問題等、テーマを決定し、年間を通して記事を載せる。
(2)	情報発信（顧客確保、人材確保、地域還元、十分な施設情報公開）が十分効果があげられるよう、広報媒体利用者から意見集約ができる体制を作る。
実施計画	
(1)	広報誌編集会議にて特集記事（介護保険等高齢者に係ること、施設、職員に関すること等）についてタイムリーな話題を検討し、毎号記事を載せる。※30年度は「これからの高齢者施策」として記事を作成する。
(2)	季刊広報誌、ホームページ、パンフレットのような一方通行の情報発信媒体に加え、双方向性による情報発信の方法・ツールを検討し、具体化する。

(平成30年度・委員会検討実施スケジュール)

開催月	各月委員会（第一水曜日開催）・内容
4月	広報誌春号発行月（20日発行）、広報誌夏号編集会議
5月	情報発信媒体ツール検討
6月	情報発信媒体ツール検討
7月	広報誌夏号発行月（20日発行）、広報誌秋号編集会議、情報発信媒体ツール案提示
8月	広報誌アンケート内容検討/情報発信媒体ツール決定
9月	広報誌アンケート内容決定
10月	広報誌秋号発行月（20日発行）、広報誌新年号編集会議、広報誌アンケート配布
11月	広報誌アンケート集計・ホームページ/パンフレットリニューアル検討
12月	広報誌アンケート報告・ホームページ/パンフレットリニューアル検討
1月	広報誌新年号発行月（20日発行）、広報誌春号編集会議、次年度事業計画検討
2月	次年度事業計画確定
3月	事業計画評価

広報誌作成の流れ

発行月2ヶ月前	広報委員会にて編集会議（原稿依頼）
発行前月30日	原稿回収
発行前月1日 ～発行前月15日	編集・校正
発行前月15日 ～発行前月25日	稟議（誤字脱字チェック、修正）
発行前月末	印刷（業者）
発行月15日	送付（特養利用者家族郵送分）
発行月20日	配布（各サービス、ボランティア、民生など）

HP更新の流れ（毎週金曜日）

第1週	デイサービス(一般)
	タイムリーなインフォメーション
	特養の出来事/事故報告 タイムリーな話題
第3週	デイサービス(認知)
	タイムリーなインフォメーション
	特養の出来事 タイムリーな話題
毎週	特養メニュー

〈今年度予算〉（支出の部）

科目	積算内訳	予算額	備考
広報費支出		¥400,000	広報誌印刷代
		¥103,680	広報誌レイアウト編集代
印刷製本費支出	事業計画・事業実績報告印刷製本代	¥250,000	事業計画・事業実績報告印刷製本代
業務委託費支出	¥9,720（月額）×12か月	¥116,640	HP保守
手数料支出	年額	¥7,350	ドメイン管理料
合 計		¥877,670	

5. 人材育成

(1) 人材育成委員会の設置

中長期計画	○キャリアパスに基づく人事評価の適正な実施の定着化と人材育成が連動した仕組みを明らかにしていく。
年度目標	
(1) キャリアパスに基づいた人事考課システムを実施し、各階層ごとの職員の育成を図る。	
実施計画	
(1)	新人事考課システム（仮）を実施するにあたり、人事考課マニュアルを完成させ、研修及び教育スケジュールを明確にし、人事考課を確実に運用、実施する。
(2)	キャリアパスをもとに階層別のキャリアに即した研修の情報収集を行い、外部研修への参加をさせる。
(3)	管理職に研修参加の意識を理解させ、職員に適正な研修受講ができる環境づくりを提案する。
(4)	悉皆研修を含め職員に必要な研修を実施する。(2) 職員研修参照
(5)	自己啓発支援（自己啓発支援制度、江戸川光照苑職員研修等支援）をアピールし、また外部研修一覧を見やすいところに設置（特養棟、センター棟に設置）し、各職員に応じた研修の紹介を行い、職員の自己啓発を促す。

(2) 職員研修

施設内研修（全体研修）

※ 特養悉皆研修に関しては必ず、主任以上の職員を参加させ、フロアミーティングで未受講者に実践指導し、記録すること。

日付	内容
4月	人材育成委員会にて年間研修計画の確認、検討
5月	事故発生防止について（悉皆）
6月	食中毒防止について（悉皆）
7月	救命技能認定研修
8月	認知症ケアに関する研修
9月	高齢者の権利擁護～身体拘束や虐待防止についての取組
10月	感染まん延防止について（悉皆）
11月	非常災害に備えて
12月	事故発生防止について（悉皆）
1月	看取り介護について（悉皆）
2月	ハラスメント研修
3月	褥瘡予防について（悉皆）

【特養悉皆研修】

- ①事故発生防止研修（年2回以上）
- ②感染症・食中毒研修（年2回以上）
- ③身体的拘束適正化研修
（定期的実施）
- ④看取り介護研修（実施必須）
- ⑤褥瘡対策
（施設内職員継続教育実施）

※身体的拘束等の適正化のための研修を定期的を実施すること（回数指定なし）

＜今年度予算＞（支出の部）

科目	積算内訳	予算額	備考
研修研究費	¥5,000×80件	¥500,000	外部研修
報酬費	¥26,000×5名+¥20,000×1名	¥150,000	講師料
合計		¥650,000	

施設外研修（外部研修参加）

- ※ 人材育成委員会が情報収集（各団体HP、各団体からのFAX等）をし、内部検討の後、委員長より各部署部長ならびに課長に参加提案、指示をし、積極的に参加を促す。参加者は研修出席後、研修報告を作成し、提出。各部署内で報告会を行う。
- ※ 自主的に研修に参加したい場合、「自己啓発支援」「江戸川光照苑職員研修等支援」を利用する。

(3) 実習生受入れ（施設実習担当委員会）

年度目標

- (1) 定期的な新卒採用を目指し、受け入れ学校、実習生の情報を管理課と共有し採用を目指していく
- (2) 実習生の効果的な育成を目指し、実習受け入れ学生の情報を担当者で共有し、指導方法を調整し個々にあった実習指導を行っていく

実施計画

- (1) 管理課と連携し、実習生を新規採用に繋げていく。
採用職員としての適否を判断（実習担当者）→介護課会議での検討→管理課への情報提供（求人票の提供）
→本人、学校への連絡
- (2) 担当者を各フロアに選定。実習受け入れ前に担当者で検討し配属フロア決定。その後実習中の学生の情報、習熟状況を担当者で共有。個々に合った実習指導方法を検討、実施をおこなっていく。

＜今年度予算＞（収入の部）

科目	積算内訳	予算額	備考
受入研修費収入	¥1500×2名 15日間	¥22,500	東京福祉専門学校
	¥3240×5名 115日間（社会福祉実習含む）	¥372,600	大原医療福祉保育
	¥2160×2名 23日間	¥49,680	読売理工医療福祉専門学校
	¥1500×8名 40日間	¥60,000	社会福祉施設等体験事業
合計		¥504,780	平成29年度の実績をもとに算出

6. ボランティアの拡充

中長期計画	ニーズ抽出内容や活動内容を整理し、ボランティア、職員がよりよい環境の中で活動できるように、採用計画を立案する。またボランティアのスキルアップ向上の取組を発信する。
年度目標	
(1) 利用者が快適で豊かな日常生活が送れるように生活ボランティアの増員を図る。	
(2) ボランティアの活動内容について、多方面から整理・確定し、ボランティア活動に活かされる環境を構築する。	
実施計画	
1)	ボランティア、職員から活動内容を整理したうえで、それに合わせた季節ごとのスケジュール、具体的な募集内容を広報誌・HPに掲載し活動の場を周知する。また若年層のボランティア獲得の為、学校等へチラシ配布をする。
2)	ボランティアのスキルアップ向上のため、ボランティアが希望する知識や求めるものの内容を整理し、その内容に即した簡易なハンドブックを作成する。また関連する苑内研修や外部研修等があれば紹介し、参加を勧める。

ボランティア委員会検討内容・スケジュール

開催月	実施	委員会検討内容及び活動スケジュール	その他内容
4月	○	職員からの要望徴収方法の検討・決定	今年度事業計画について
5月		活動内容整理・確定	
6月	○	チラシ・ハンドブック内容検討/広報委員へ募集内容検討	納涼祭について
7月		チラシ・ハンドブック印刷	
8月		チラシ・ハンドブック配布	
9月		広報委員へ募集内容検討	
10月	○	活動内容について進捗状況/広報委員へ募集内容検討	ボランティア懇談会について
11月		懇談会案内配布・集計	
12月		懇談会にてボランティアからの要望徴収	
1月	○	活動内容整理・確定/広報委員へ募集内容通知	次年度事業計画考案
2月		次年度事業計画決定	
3月		年間活動総括	

〈今年度予算〉（支出の部）

科目	積算内訳	予算額	備考
雑支出	¥2000×60名	¥120,000	懇談会費
	1ヶ月¥1500×12ヶ月	¥18,000	お茶菓子代
	¥300×60名	¥18,000	保険切り替え
	布・糸・その他修繕	¥10,000	縫い物品代
	花束代	¥10,000	保育園・中学等のお礼
合 計		¥176,000	

7. サービス内容に関する苦情受付対応	
年度目標	
(1)	利用者、家族、地域の方からの苦情への対応は、当苑のすべての部門において、最優先すべき課題であると位置づけ、迅速かつ適切・誠実に対応する。
実施計画	
(1)	苦情解決に社会性や客観性を確保し、利用者の立場や状況に配慮した適切な対応を図るために第三者委員を設置する。

苦情処理体制

- 1) 当法人苦情相談担当
 - 苦情解決責任者：鈴木 文子（社会福祉法人光照園 理事長）
 - 苦情受付担当者：毛部川 三男（社会福祉法人光照園 常務理事）
 - 第三者委員：大江 尚樹（社会福祉法人厚生会 理事長）
 - 第三者委員：石川 武敬（民生・児童委員）
 - 第三者委員：宇田川 康（宇田川整形外科内科診療所医師）
- 2) 当施設苦情相談担当
 - 苦情解決責任者：日比谷 登志子（江戸川光照苑 苑長）
 - 苦情受付担当者：福島 芳明（江戸川光照苑 施設サービス部長）
 - 苦情受付担当者：柴田 一佐哲（江戸川光照苑 居宅サービス部長）
 - 苦情受付担当者：館山 幸子（江戸川光照苑 地域福祉部長）
- 3) その他
 - 都道府県 東京都国民健康保険団体連合会
担当：介護保険部 相談指導課
 - 区市町村 江戸川区
担当：介護保険課 事業者調整係

8. 委員会

(1) ハラスメント防止委員会

年度目標

- (1) ハラスメント予防についての啓蒙活動を行い、各種ハラスメントが起きない環境づくりをする。

実施計画

委員自身のハラスメント研修への参加（ネット学習もしくは外部研修を実施し、理解を深める）

- (1) 委員会活動の活発化
2か月に1回 情報交換も含めた委員会活動を開催。
委員会活動の内容
啓蒙活動計画の作成実行（職員研修の実施・啓蒙チラシの作成掲示）

(2) 労働安全衛生委員会

年度目標

- (1) ストレスチェックをスムーズに実施し、フォロー体制を構築する。

(2) 定期健康診断における産業医との連携と受診者のフォローを行えるようにする。

実施計画

- (1) ストレスチェックの実施方法は、これまでと同様にネットを利用した回答方法を用いる。基準値に基づいて面談対象者を選定した後、産業医との面談を勧奨する。過去2回の結果も踏まえて、心配な職員については産業医との面談を勧める。

〈実施計画〉

内容	対象職員	実施月	実施場所	備考
安全衛生委員会定例会議	産業医・委員・管理職	毎月	江戸川光照苑	月1回
ストレスチェック	全職員	6月	江戸川光照苑	8-9月分析
定期健康診断	全職員	8~10月	マックスライフ	12-1月分析
職員インフルエンザ 予防接種	全職員	11~12月	北小岩胃腸科クリニック	11-3月
夜勤者健康診断	夜勤者	2018年2~3月	マックスライフ	4-5月
腰痛健診（年2回）	介護、看護職員	8月・2月	江戸川光照苑	11月・4月分析

〈今年度予算〉（支出の部）

科目	摘要	積算内訳	予算額	備考
その他委託費	ストレスチェック		¥135,000	
福利厚生費	定期健康診断		¥750,000	
	職員インフルエンザ		¥252,000	
	夜勤者健診		¥160,000	
合 計			¥1,297,000	

XII. 地域社会福祉貢献活動

(1) 地域福祉活動・地域行事

年度目標

(1) 円滑な地域との協力関係を保つ。

実施計画

(1) 開かれた施設であることを地域へ発信するため、各事業部と連携し、近隣地域との関係作りを進め、社会貢献、広報活動を進めていく。

地域行事計画等

月	地域行事	施設年間計画	備考
毎月	近隣地域の清掃活動	事業者間情報交換会 (江戸川区1回、小岩地区2回) 介護者交流会	
4月	小岩三中入学式	花見見物	
5月	区内一斉美化運動 地域防災会議	西小岩まつり パラ園見学	
6月	小岩菖蒲園まつり	小岩菖蒲園まつり参加 菖蒲見学	
7月	江戸川区防災訓練、各町会自治会祭礼	小岩第4地区民生児童委員懇談会	
8月	各町会自治会祭礼 (北小岩6町会・西小岩8町会) 地域防災会議	納涼祭・テイ夏祭り・江戸川区花火大会	
9月		笑顔いっぱい長寿の集い ぶどう狩り体験 五穀豊穡祭	
10月	江戸川区民まつり・ 北小岩地区・西小岩地区区民運動会	菊見学 ミニ運動会	
11月	北小岩まつり・区内一斉美化運動 地域防災会議・総合芸能祭	光照苑祭・菊見学	
12月	防災訓練 富士見保育園降誕劇	利用者家族忘年会会食	
1月	餅つき大会	初詣・餅つき大会	
2月	初午祭・北小岩地区総合防災訓練 地域防災会議	節分豆まき 買い物ツアー 小岩第2地区民生児童委員懇談会	熟年者施設職員の集い
3月	北小岩保育園卒園式 小岩三中卒業式	特養家族会 ひな祭り	

<今年度予算> (支出の部)

科目	摘要	積算内訳	予算額	備考
雑支出	寄付	町会祭礼への寄付 (北小岩6町会 西小岩8町会)	¥75,000	地元町会のみ1万円
	寄付	北小岩まつり・西小岩まつり	¥15,000	地元町会のみ1万円
	寄付	北小岩地区運動会 西小岩地区運動会	¥15,000	地元町会のみ1万円
合計			¥105,000	

地域開放への展開 (障害者就労支援の一環として)

- 江戸川光照苑・マルシェ開催- (毎月1回 木曜日開催予定)
- 「江戸川区障害者就労支援センター」・「東京光の村授産学園」・「元明館」他 共同による実施
- ・障害者通所施設での作品の販売
- ・江戸川光照苑は場所の提供

(2) ふれあいセンター光笑苑（緩和型通所サービス）

年度目標

- (1) 利用者の有する能力が活かされる場として、必要な日常生活上の支援を行うことにより、利用者の社会参加及び生活機能の維持または向上に貢献する。

実施計画

（介護予防・日常生活支援総合事業対象者）
旧熟年ふれあいサービス及び旧いきいきトレーニングを利用された方々を中心に受け入れ、それぞれに適したプログラムを用意し、実施する。

- (1)
- ①いきいき運動教室：科学的根拠と効果が実証されている運動種目を提供し、評価する。
 - ②ふれあいサロン：創作活動、茶話会等を通じて交流の場を提供する。
 - ③いきいき健康教室：健康に関するテーマに沿って講師によるセミナーを実施する。

（地域社会貢献対象者）

- (2) 地域社会貢献活動として、地域の中で閉じこもりや男性独居者等に「ふれあいセンター光笑苑」を紹介し、安価で利用していただく。

<今年度予算>（収入の部）

科目	積算内訳	予算額	備考
介護予防・日常生活支援総合事業利用料収入	基本単位×延人数×単価×0.9	¥4,708,800	いきいきトレーニング
	基本単位×延人数×単価×0.9	¥2,823,120	ふれあいサロン
利用者負担金収入	基本単位×延人数×単価×0.1	¥523,200	いきいきトレーニング
	基本単位×延人数×単価×0.1	¥366,000	ふれあいサロン
利用者等利用料収入	単価（500）×延人数	¥480,000	いきいきトレーニング
	単価（500）×延人数	¥240,000	ふれあいサロン
利用者等利用料収入	食費（500）×延人数	¥720,000	ふれあいサロン
	教養娯楽費（100）	¥144,000	
合 計		¥10,005,120	

<今年度予算>（支出の部）

科目	積算内訳	予算額	備考
給食材料費支出	¥250×1440食	¥360,000	
教養娯楽費支出		¥180,000	
合 計		¥540,000	

XIII. 中長期計画

XIII. 中長期計画

中長期計画（介護老人福祉施設）

	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	介護の重度化・体格の向上などから、介護負担が増えている。介護職員の人員確保と離職者を減らす為にも、職員の身体負担及び、ストレスの軽減化が必要である。	介護技術の向上・適正な介護機器の導入及び使用・訓練実施、定着
2	利用者の皮膚状態の衛生面の向上及び、褥瘡・皮膚疾患の予防に対する対応力の向上が必要である。	看護・介護・機能訓練と連携した、褥瘡、皮膚疾患の発生防止・予防の強化
3	利用者個人の有する課題に関しての共通認識が不十分であり、ケアプランが画一的になっている。	ケアプラン作成にあたっての各セクションからの情報提示と検討体制の強化
4	利用者の退所後から、入所までの期間を要する。この為、稼働率の目標達成が困難になる状況がある。	入所決定までのプロセスを効率化し、入所検討委員会にて常に複数の入所可能者を選定していく
5	医療・リハビリ・介護・栄養の各セクションの観点・対応による、薬に頼らない排便コントロールが必要である。	各セクションのチームケアにより、自然排便を促す食生活の推進

中長期計画（短期入所生活介護）		
	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	在宅で中重度・認知症高齢者が増加している中、短期入所として在宅生活を継続・支援するための取り組みが必要。	介護ロボット（見守り機器）の活用について、介護職員の業務の効率化や効果測定方法などを検討し、活用方法を確立する。
2	同上	夜間の医療処置への対応の強化として喀痰吸引等の実施できる職員の配置をし、中重度者の受入をしていく。
中長期計画（居宅介護支援事業）		
	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	平成30年以降の法改正の中、医療・介護の役割分担と連携の一層の推進が必要となるが、利用者・家族の代弁者としての医療的知識・技術・コミュニケーション力が不足している。	悪性腫瘍等、医療的なケアが必要な高齢者の増加の中で、利用者に対して適切なケアマネジメントの構築。

中長期計画（一般型通所介護事業）

	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	介護報酬改定により、介護給付費の見直しにより、安定収入の確保と他通所事業所との競争力の強化が求められる。	高齢者在宅サービスセンター江戸川光照苑の特色の明確化と重度利用者受入れのため、職員個々の介護力の向上
2	事業所内の各セクションの連携を取り、利用者の生活行為向上のための機能訓練を中心とした体制をとらなくてはならない。	利用者の生活行為向上のためのプロセスの共有と職種間の役割の明確化
3	在宅での生活の継続支援のために、高齢者に適した食事が家庭においても提供できる必要がある。在宅利用者の栄養改善への取組が不十分であり、新たな加算を取得できる状況にない。	定期的な栄養状態の確認と各セクションとの情報共有体制（ケアマネジャー含む）を確実なものとし、在宅での生活継続支援を強化する。

中長期計画（認知症対応型通所介護事業）

	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	ご自宅での生活状況とニーズの把握が不十分であり、利用者個々に対してのプランや対応・支援が画一になりがちである。	在宅生活の安定した継続支援の確立とサービス提供の差別化（個別化）。
2	小岩地区唯一の認知症型通所介護事業所ではあるが、地域の中での認知度が不十分である。	事業所が培ってきたノウハウや利用することでのメリットを発信し、地域の方々に認知され、安心や信頼感を与える事業所となる。

中長期計画（江戸川区委託事業）

	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	<p>（地域包括支援センター） 地域の特性に則した高齢者を支える地域活動の充実をこれまで目標としていたが、職員の人員交代、相談件数や虐待対応の増加などにより地域活動の充実のためには他方面からの見直しが必要となる。</p>	<p>地域活動の充実のため、地域の活動団体との役割分担の整理</p>
2	<p>（地域包括支援センター） 同上</p>	<p>困難ケースに対応するため、課題を的確に捉えられるような人材育成の確立</p>
3	<p>（地域包括支援センター） 同上</p>	<p>地域包括ケアの要としての業務が円滑にできるようにするため、委託業務量及び業務内容について精査し、江戸川区へ働きかける。</p>
4	<p>（虚弱者向け配食サービス） 配達職員が、認知症や高齢者についての基本的な考え方の理解が不足しているため、適切な対応ができていない一面がある。</p>	<p>利用者及び家族にとっての最善のサービスの実現のために、職員が高齢者にとって適切な対応ができるよう、人材の育成を図る。</p>

中長期計画（品質管理）		
	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	各部門を超えた苑全体の運営の中で課題抽出や課題解決を担う中間管理職（課長級）の育成及び各個人のレベルアップの仕組みと場が明確でない。	品質管理室会議を中間管理職（課長級）の育成及びレベルアップの場とし、その仕組みを明確化する。
2	職務分掌内規が形骸化、あいまいとなっており、職能、職務が明確でない。	職務分掌内規を再作成し、それぞれの役職・部署ごとに果たすべき役割や責任（職責）、権限（職権）を明らかにし、職務分掌を適正に運用して業務を効率化していく。
中長期計画（管理部門）		
	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	修繕費・固定資産・備品購入について、予算との連動、進捗管理ができず、確実な執行がされない。	各部門からのニーズ把握を十分行った上で、予算案を作成し、予算との連動並びに進捗管理の体制を強化する。
2	退職後の職員補充が進まず、介護人材の確保が困難である。またこのことにより、職員の業務に対する不安がある。	人材確保が容易となるよう、必要な資格要件者に対し、学校訪問など求職アプローチを確実なものとしていく。また各部門における必要な人材の把握を常に行い、都度人材採用計画を明確にしていく。
中長期計画（栄養部門）		
	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	給食委託業者との密接な連携が取れておらず、利用者へ提供する食事に関して、満足感を与えることができていない。	利用者に美味しく、食べやすく、見た目よく、楽しく、栄養的にも満足される食事の提供と食を通しての健康の維持

中長期計画（災害対策）		
	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	災害に対しての意識が希薄であること、また施設利用者ばかりでなく、地域住民の安全を守る拠点としての役割意識が不十分である。	全職員が災害に対する意識を高め、災害時における役割を理解し、行動できる。
中長期計画（人材育成）		
	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	職制ごとの役割と求められる職員像をキャリアパスとして示したが、キャリアパスに基づくレベルアップが十分に図られていない。	キャリアパスに基づく人事評価の適正な実施の定着化と人材育成が連動した仕組みを明らかにしていく。
中長期計画（ボランティア）		
	抽出された課題	課題に対する中長期計画
1	利用者、職員、ボランティアのニーズ抽出・活動内容整理が不十分であり、具体的かつ効率的な採用方法が確立していないため、利用者の生活全般の向上と職員の専門性が活かされる環境にない。	ニーズ抽出内容や活動内容を整理し、ボランティア、職員がよりよい環境の中で活動できるよう、採用計画を立案する。またボランティアのスキルアップ向上の取組を発信する。